

【行動文化学】

講義コード	科目名		単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
7131001	心理学	特殊講義	2	前期	集中	伊村 知子		行動文化学系1
7131005	心理学	特殊講義	2	後期	水4	上田 竜平		行動文化学系2
M341001	心理学	特殊講義	2	後期	水3	森口 佑介		行動文化学系3
M341002	心理学	特殊講義	2	前期	水3	蘆田 宏		行動文化学系4
M341003	心理学	特殊講義	2	後期	火4	齋木 潤		行動文化学系5
M341004	心理学	特殊講義	2	前期	月2	熊田,西田,中島,水原,佐藤		行動文化学系6
M341005	心理学	特殊講義	2	前期	木1	高橋,MANALO,楠見,齊藤,野村		行動文化学系7
M341006	心理学	特殊講義	2	前期	水2	黒島 妃香		行動文化学系8
M342001	心理学	演習	4	通年	火3	蘆田,阿部,森口,黒島,Wilson,藤本		行動文化学系9
7231001	言語学	特殊講義	2	前期	月4	千田 俊太郎		行動文化学系10
7231002	言語学	特殊講義	2	後期	火5	浅尾 仁彦		行動文化学系11
7231003	言語学	特殊講義	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学系12
7231004	言語学	特殊講義	2	前期	金3	定延 利之		行動文化学系13
7231005	言語学	特殊講義	2	後期	金1	野原 将揮		行動文化学系14
7231007	言語学	特殊講義	2	後期	水5	谷口 一美		行動文化学系15
7231008	言語学	特殊講義	2	後期	金3	定延 利之		行動文化学系16
7231009	言語学	特殊講義	2	前期	水3	山本 武史		行動文化学系17
7231010	言語学	特殊講義	2	前期	集中	宮本 陽一		行動文化学系18
7231011	言語学	特殊講義	2	前期	集中	倉部 慶太		行動文化学系19
7231012	言語学	特殊講義	2	前期	月4	守田 貴弘		行動文化学系20
7231013	言語学	特殊講義	2	前期	月2	Tao Pan		行動文化学系21
7231014	言語学	特殊講義	2	後期	月2	Tao Pan		行動文化学系22
7231015	言語学	特殊講義	2	後期	水4	安岡 孝一		行動文化学系23
7231016	言語学	特殊講義	2	後期	月4	千田 俊太郎		行動文化学系24
7231017	言語学	特殊講義	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学系25
7231018	言語学	特殊講義	2	前期	水5	松本 亮		行動文化学系26
7231019	言語学	特殊講義	2	後期	火4	荻原 裕敏		行動文化学系27
7231020	言語学	特殊講義	2	前期	金1	野原 将揮		行動文化学系28
M351001	言語学	特殊講義	2	後期	火3	横森 大輔		行動文化学系29
7241001	言語学	演習	2	後期	木2	笹間 史子		行動文化学系30
7241002	言語学	演習	2	前期	木2	パリハワダナ ルチラ	日本語教育セミナー	行動文化学系31
7241003	言語学	演習	2	前期	月5	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動文化学系32
7241004	言語学	演習	2	後期	月5	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動文化学系33
7241011	言語学	演習	2	前期	金3	堀口 大樹		行動文化学系34
7241012	言語学	演習	2	後期	火4	堀口 大樹		行動文化学系35
7241013	言語学	演習	2	前期	火4	堀口 大樹		行動文化学系36
M352001	言語学	演習	4	通年	金4,金5	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動文化学系37
9620001	言語学	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	行動文化学系38
9624001	言語学	語学	2	前期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	行動文化学系39
9625001	言語学	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	行動文化学系40
7331001	社会学	特殊講義	2	前期	金4	松谷 実のり		行動文化学系41
7331002	社会学	特殊講義	2	前期	火3	落合 恵美子		行動文化学系42
7331003	社会学	特殊講義	2	前期	火2	Stephane Heim		行動文化学系43
7331004	社会学	特殊講義	2	前期	集中	戸江 哲理		行動文化学系44
7331005	社会学	特殊講義	2	前期	水5	岸 政彦		行動文化学系45
7331006	社会学	特殊講義	2	前期	木2	守 如子		行動文化学系46
7331007	社会学	特殊講義	2	後期	金2	安里 和晃		行動文化学系47
7331008	社会学	特殊講義	2	前期	木3	溝口 佑爾		行動文化学系48
7331009	社会学	特殊講義	2	後期	水2	東 園子		行動文化学系49
7331012	社会学	特殊講義	2	前期	金1	伊達 平和		行動文化学系50
7331013	社会学	特殊講義	2	後期	金3	岡邊 健		行動文化学系51
7331014	社会学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		行動文化学系52
7331015	社会学	特殊講義	2	前期	月5	吉田 純		行動文化学系53
7331017	社会学	特殊講義	2	後期	水2	RAJIKAI ZSOMBOR		行動文化学系54
7331018	社会学	特殊講義	2	前期	木2	溝口 佑爾		行動文化学系55
7331024	社会学	特殊講義	2	前期	木2	柴田 悠		行動文化学系56
7331025	社会学	特殊講義	2	後期	月4	落合 恵美子		行動文化学系57
7331026	社会学	特殊講義	2	前期	金2	安里 和晃		行動文化学系58
7331032	社会学	特殊講義	2	後期	水2	直野 章子		行動文化学系59
7331033	社会学	特殊講義	2	前期	集中	竹沢 泰子		行動文化学系60
7331034	社会学	特殊講義	2	前期	集中	仁平 典宏		行動文化学系61
7334001	社会学	特殊講義	3	前期	月4	Stephane Heim	大学院共通科目	行動文化学系62
M361002	社会学	特殊講義	2	通年	集中	安里 和晃,Stephane Heim,落合 恵美子		行動文化学系63
M361003	社会学	特殊講義	2	前期	集中	打越 正行		行動文化学系64
M361004	社会学	特殊講義	2	通年	水4	太郎丸 博		行動文化学系65
M361005	社会学	特殊講義	2	前期	水3	秋津 元輝		行動文化学系66
M361006	社会学	特殊講義	2	後期	水3	秋津 元輝		行動文化学系67
M361007	社会学	特殊講義	2	前期	水2	竹内 里欧・藤村 達也		行動文化学系68

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M361008	社会学	特殊講義	2	前期	金1	速水 洋子		行動文化学系69
M361009	社会学	特殊講義	2	前期	火4	吉田 純		行動文化学系70
M361010	社会学	特殊講義	2	後期	木2	柴田 悠		行動文化学系71
M362001	社会学	演習	4	通年	月5	Stephane Heim		行動文化学系72
M362002	社会学	演習	4	通年	金5	落合 恵美子		行動文化学系73
M362003	社会学	演習	4	通年	金4	太郎丸 博		行動文化学系74
M362005	社会学	演習	4	通年	火5	田中 紀行		行動文化学系75
M363001	社会学	演習	2	後期	水5	岸 政彦		行動文化学系76
7431001	地理学	特殊講義	2	前期	水2	水野 一晴		行動文化学系77
7431002	地理学	特殊講義	2	後期	水2	水野 一晴		行動文化学系78
7431003	地理学	特殊講義	2	前期	火2	米家 泰作		行動文化学系79
7431004	地理学	特殊講義	2	後期	火2	米家 泰作		行動文化学系80
7431005	地理学	特殊講義	2	前期	火3	小方 登		行動文化学系81
7431006	地理学	特殊講義	2	前期	火2	小島 泰雄		行動文化学系82
7431007	地理学	特殊講義	2	前期	金3	山村 亜希		行動文化学系83
7431008	地理学	特殊講義	2	前期	集中	松四 雄騎	教職科目「自然地理学」	行動文化学系84
7431009	地理学	特殊講義	2	前期	集中	財城 真寿美		行動文化学系85
7431010	地理学	特殊講義	2	前期	木5	河本 大地		行動文化学系86
7431011	地理学	特殊講義	2	後期	木5	河本 大地		行動文化学系87
7431012	地理学	特殊講義	2	前期	集中	鈴木 晃志郎		行動文化学系88
7431013	地理学	特殊講義	2	前期	木3,木4	村田 陽平	隔週で実施	行動文化学系89
7431014	地理学	特殊講義	2	後期	木3,木4	村田 陽平	隔週で実施	行動文化学系90
7431015	地理学	特殊講義	2	前期	金1	小坂 康之		行動文化学系91
7431016	地理学	特殊講義	2	前期	金2	大山 修一		行動文化学系92
7431017	地理学	特殊講義	2	前期	金4	杉江 あい		行動文化学系93
7431018	地理学	特殊講義	2	後期	金4	杉江 あい		行動文化学系94
7441001	地理学	演習	2	後期	金3	山村 亜希	地理学演習(歴史地理学)	行動文化学系95
M372001	地理学	演習	4	通年	水5	水野 一晴,米家 泰作,杉江 あい		行動文化学系96
M373001	地理学	演習	2	後期	火2	小島 泰雄	地理学演習(中国農村)	行動文化学系97

行動文化学系1

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		日本女子大学 人間社会学部心理学科 准教授 伊村 知子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		比較認知発達概論									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの心は、発達とともに変化するものであると同時に、環境への適応をとおして形づくられた進化の産物である。この講義では、発達と進化の視点から心理学の成り立ちをとらえることにより、人の心の基本的な仕組み及び働き、ヒトに固有の心の特徴、心の普遍性と多様性について理解を深める。また、ヒトの持つ高度な知性として、言語、心の理論、協力行動、道徳、文化などのトピックを取り上げ、他の動物にもそのような知性の要素が認められるのかを比較することにより、ヒトの心のどのような性質が人間らしさを生み出しているのかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・心のなりたちについて生物学的な視点、進化と発達の視点から考えることができる。 ・人間の認知システムの特徴を人間以外の動物との比較の視点から説明することができる。 ・人間の認知システムの特徴を環境への適応の産物として捉えることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 認知の進化と発達 第2回 歴史と方法 第3回 知覚（色彩視・立体視・形態視） 第4回 認知（顔認知・空間認知・部分処理と全体処理） 第5回 記憶 第6回 物体認識 第7回 自己認識 第8回 心の理論 第9回 協力行動 第10回 情動 第11回 言語・コミュニケーション 第12回 文化（社会学習） 第13回 脳と心の進化 第14回 心と身体の発達 第15回 全体のまとめ （計画は講義の進行状況により変更されることがあります。）</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業回終了後にレポートを課し、その内容によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特になし。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系2

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 助教 上田 竜平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・共感・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 情動の神経基盤 9. 報酬と意思決定 10. 選好判断と社会的関係の構築 11. 共感と利他行動 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価（50％）及びレポート（50％）。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk（<http://www.ted.com/talks>）についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系3

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		発達認知神経科学論									
[授業の概要・目的]											
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学、計算論的モデルなどの知見を参照しながら理解することを目的とする。本年は注意や記憶、視覚イメージなどの認知機能とその脳内基盤について、講義と受講者の発表を織り交ぜながら検討する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する ・ 様々な認知発達の関連性を理解する 											
[授業計画と内容]											
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 14 認知発達とその脳内基盤についての最新知見 15 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
【評価方法】 発表を割り当てるので、その発表（80点）および平常点(20点) 【評価基準】 到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
【予習】 参考書程度の知識は授業前に身につけておく 【復習】 授業の課題論文について、復習する （わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください）											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚科学特論									
【授業の概要・目的】											
<p>視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。</p>											
【到達目標】											
<p>視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 fMRIと分析手法 <p>後半、-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 フィードバック 											
【履修要件】											
<p>学部で実験心理学または周辺領域（神経科学など）の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価（発表と議論への参加）</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

前半は授業中に指示する。

後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚認識論									
[授業の概要・目的]											
視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。											
[到達目標]											
正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。											
<ul style="list-style-type: none"> 1 - 2回．心理物理学的測定法 3 - 4回．信号検出理論の基礎 5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索 7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶 9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識 11 - 12回．反応時間解析 13回．脳波測定とその解析 14回．授業内試験（問題演習） 15回．フィードバック 											
[履修要件]											
心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。											
[成績評価の方法・観点]											
最終回の授業に筆記試験を行う											
[教科書]											
教科書は用いない。											
[参考書等]											
(参考書) なし。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。											
(その他（オフィスアワー等）)											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系6

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		情報学研究科 教授 熊田 孝恒 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 情報学研究科 講師 水原 啓暁 非常勤講師 佐藤 弥			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知科学基礎論									
[授業の概要・目的]											
<p>視覚認知、注意、記憶、意識、実行機能、感情などを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳の関係性を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。</p> <p>This lecture elaborates on the issue of brain mechanisms such as visual recognition, attention, memory, consciousness, executive function, and emotion. In addition, technical issues of experimental psychology and functional brain imaging are introduced. The applied aspects of these issues are also explained.</p>											
[到達目標]											
<p>人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。</p> <p>Basic knowledge and techniques for understanding of human cognitive system can be learned.</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 脳の基礎 (水原) 3. 視覚情報処理の基礎 (西田) 4. 基本的な視覚属性の知覚 (西田) 5. 複雑な視覚属性の知覚 (西田) 6. 知覚的意思決定 (三好) 7. 注意 (中島) 8. アクション (中島) 9. 記憶 (水原) 10. 意識 (三好) 11. 実行機能 (熊田) 12. 感情 (佐藤) 13. 社会的認知 (佐藤) 14. 認知の個人差, 加齢変化, 障害 (熊田) 15. フィードバック <p>---</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

1. Introduction
2. Basics of the brain
3. Basic of visual information processing
4. Visual perception for simple attributes
5. Visual perception for complex attributes
6. Perceptual decision
7. Attention
8. Action
9. Memory
10. Consciousness
11. Executive function
12. Emotion
13. Social cognition
14. Individual difference, aging and deficits of cognition
15. Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回、講義中に行うまたは、講義中に出題し、期限内に提出を求める小レポートにより評価（講義の最後実施するとは限らないので要注意）

これらは通常のテストと同等に扱う。

フィードバックを除く14回分を10点満点で採点し、合計140点満点を合計100点に換算する（小数点以下切り上げ）。したがって、6回以上、小テストを受けていない場合には、残りが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の指示により、予習復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 高橋 雄介 教育学研究科 教授 Emmanuel MANALO 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 准教授 野村 理朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知デザイン特論									
[授業の概要・目的]											
<p>デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。さらに、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。最後に、行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しているのかについての関連性を、エラー防止、文芸、教育などの事例を取り上げて考察する。</p>											
[到達目標]											
<p>認知心理学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：認知心理学の系譜 2. 認知の制約とデザイン：行動の制約 3. 記憶の制約 4. 認知トレーニングのデザイン 5. Design of visual information（英語で講義する） 6. Designing failure for success（英語で講義する） 7. Designing assessment for learning（英語で講義する） 8. ブレイン・サイエンス:脳のデザイン 9. 遺伝子の機能:行動のデザイン 10. 感情と心身のデザイン 11. 言語芸術のデザイン 12. メディア・学習環境のデザイン 13. パーソナリティ発達のデザイン 14. 遺伝と環境の影響による個人差のデザイン 15. 試験 16. フィードバック *フィードバック方法は別途連絡する 											
* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験による評価を行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗(編) 『教育認知心理学の展望』(ナカニシヤ出版)(
その他は授業中に紹介する)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考図書・論文, 配付資料を活用して各回の要点を復習する

(その他(オフィスアワー等))

授業責任者連絡先 E-mailアドレス takahashi.yusuke.3n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系8

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		比較認知特論									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。											
[到達目標]											
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
毎回の討論内容（30％）及び、発表担当回での発表と討論（40％）、最終回での討論（30％）により評価する。											
[教科書]											
特に用いない。必要な資料は準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系9

科目ナンバリング		G-LET28 7M342 SJ46										
授業科目名 <英訳>		心理学(演習) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音				
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時間	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
題目		現代心理学の諸問題										
[授業の概要・目的]												
受講者のオリジナル研究に基づく研究発表と、それを題材とした討論をおこなう。これにより、研究発表技術の向上、討論力の向上を図るとともに、多様な視点からの議論を通して、研究の洗練と展望を支援する。												
[到達目標]												
自らがオリジナルの研究を発表・討論することで、発表技術および討論の能力を身に付け、研究者としての基本的能力を養う。												
[授業計画と内容]												
各人の研究テーマとその進捗状況について発表し、発表内容及びそれに関連した内容について、博士後期課程の大学院生も含め、全員で討論する。前期後期、1回ずつの研究発表を課す。希望者は英語による発表を認める。後期には博士後期の学生に英語による発表を課す。発表者はレジュメを配布する。コンピュータを使用したプレゼンテーションが推奨される。出席者には積極的な討論への参加が求められる。具体的には以下の通りを行う。												
1週：オリエンテーション、授業の進め方に関する説明 2週～29週：学生の発表、発表に関する全体討論 30週：総括												
[履修要件]												
原則として、心理学専修所属の大学院生であること												
[成績評価の方法・観点]												
平常点による												
[教科書]												
使用しない												
[参考書等]												
(参考書) 必要に応じて指示する												
----- 心理学(演習)(2)へ続く -----												

心理学(演習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

発表の事前準備をしっかりと行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系10

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オセアニア諸言語概説									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の約四分の一がオセアニアに分布する。この講義ではオセアニアの諸言語の言語特徴についての知識を身につけてゆきながら、それらを例として言語研究の方法をまなぶ。前期は代名詞、音素、危機言語、指示詞、所有表現、動詞の屈折などのトピックを取り上げる。											
【到達目標】											
オセアニアに分布する言語には南島語族(オーストロネシア語族)の諸言語、パプア諸語、オーストラリア諸語が含まれる。授業の到達目標は、この講義で取り上げるいくつかの言語類型特徴・言語現象と分析方法について理解するとともに、それらについて、オセアニアでは言語グループ別にいかなる傾向が見られるのか把握することである。											
【授業計画と内容】											
以下のとおり予定しているが、受講者の理解度によって変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに オセアニア諸地域と言語分布の概要 2~4. 代名詞 5~7. 音素(母音・子音) 8. 危機言語 9~11. 指示詞 12~13. 所有表現 14. 動詞の屈折 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する Dixon, R. M. W. (2002) Australian Languages, Cambridge University Press.											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

Foley, William A. (1986) *The Papuan languages of New Guinea*, Cambridge University Press.
Lynch, John (1998) *Pacific Languages: An Introduction*, University of Hawai'i Press.
Lynch, John, Malcolm Ross, and Terry Crowley (2002) *The Oceanic Languages*, London: Curzon Press.
Palmer, Bill (ed.) (2018) *The Languages and Linguistics of the New Guinea Area*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で多くの論文・書籍を紹介するので、復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系11

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 浅尾 仁彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コーパスと言語研究									
【授業の概要・目的】											
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。											
【到達目標】											
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 コーパスとしてのウェブ</p> <p>第3回 テキストデータ</p> <p>第4回 コーパスの作成・入手</p> <p>第5回 検索と正規表現</p> <p>第6回 コロケーションと統計の初歩</p> <p>第7回 論文紹介 (1)</p> <p>第8回 Pythonによるテキスト処理 (1) 検索</p> <p>第9回 Pythonによるテキスト処理 (2) 繰り返し処理</p> <p>第10回 論文紹介 (2)</p> <p>第11回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計</p> <p>第12回 Pythonによるテキスト処理 (4) ファイル処理</p> <p>第13回 研究発表 (1)</p> <p>第14回 研究発表 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加 (30%)、宿題 (30%)、期末レポート (40%)											
【教科書】											
使用しない											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』 (ひつじ書房, 2021)

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』 (開拓社, 2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

(その他(オフィスアワー等))

- ・ パソコンを授業に持ち込めることが望ましい(OSなどは問わない)ですが、難しい場合は相談に応じます。
- ・ 授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようになる。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。 第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 組み合わせの文法ときもちの原理 第3回 第2回の補足、議論 第4回 場面（特に発話場）に基づく文法 第5回 場面（特に会話場）に基づく文法 第6回 第4回・第5回の補足と議論 第7回 伝達に基づくコミュニケーション行動観の批判的検討 第8回 意図に基づくコミュニケーション行動観の批判的検討 第9回 第7回・第8回の補足と議論 第10回 唯文主義を超えて（総論） 第11回 自立性が無い接ぎ穂発話は文発話か？ 第12回 第10回・第11回の補足と議論 第13回 名詞一語発話は文発話か？ 第14回 第13回の補足と議論 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の方言について									
【授業の概要・目的】											
本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。											
【到達目標】											
中国語の諸方言の枠組みを理解している 各方言の特徴を説明できる 中国語特有の方言調査の手法を身につける											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 前半：基礎的な内容 第1回－第3回：ガイダンス 調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認 第4回－第6回：中国語諸方言の概要 第7回－第9回：中古音との対応関係、中国語方言の調査方法について 後半：個別の事例と近年の研究成果 第10回、第11回、第12回、第13回、第14回 毎回個別の方言を取り上げて、その特徴について考察・議論する 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（50点）と授業内発表・小レポート（50点）											
【教科書】											
使用しない 配布資料を準備する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

（その他（オフィスアワー等））

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系16

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性はある。											
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 文節発話・節発話は文発話か？ 第3回 オノマトペ発話 第4回 感動詞発話 第5回 第2回～第4回の補足と議論 第6回 非流暢性の発話1 第7回 非流暢性の発話2 第8回 第6回・第7回の補足と議論 第9回 ドリフトイントネーション 第10回 語アクセントとイントネーション 第11回 「枝分かれ」説の検証 第12回 第9回～第11回の補足と議論 第13回 アクセント合成 第14回 並列助詞の偏った分布 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系17

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。											
【到達目標】											
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）および期末レポート（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』 (Wiley-Blackwell) ISBN: 9781119533740

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

授業時以外の連絡はメール (ichheissetakeshi@lang.osaka-u.ac.jp) によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 宮本 陽一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行い、更にその帰結を提示した期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない

ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）

宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 助教 倉部 慶太			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジア大陸部諸語の言語学									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジア大陸部は、タイ語、ビルマ語、ベトナム語など、様々な系統と類型の多様な言語が分布する。一方で、系統を超えて共通する多くの言語特徴も観察される。同地域に隣接する中国語や島嶼部の言語には、東南アジア大陸部的な言語特徴を示す言語も現れている。この講義では、音韻・形態・統語・語彙・意味・文字・系統・類型・言語接触・言語ドキュメンテーションなど様々な観点から、東南アジア大陸部の諸言語を概説し、これらの言語が言語多様性・普遍性・地域性などの観点からどのように位置付けられるかを考える。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア大陸部諸語の基礎知識を身につける ・ 東南アジア大陸部諸語を普遍性と多様性の両面から理解する ・ 言語学的視点で言語を分析する能力を養う ・ 問題意識を持ち、自主的に研究テーマを探せるようになる 											
【授業計画と内容】											
【9月5日】											
第1回：系統分類											
第2回：類型概観											
第3回：言語接触											
【9月6日】											
第4回：音韻論1：分節音・音節構造											
第5回：音韻論2：声調・発声・イントネーション											
第6回：音韻論3：声調の発生と分岐											
【9月7日】											
第7回：品詞分類											
第8回：形態論1：派生・重複											
第9回：形態論2：複合・精巧化・イオン化											
【9月8日】											
第10回：統語論1：名詞句と名詞修飾											
第11回：統語論2：アスペクト・ムード・ボイス											
第12回：統語論3：動詞連続											
【9月9日】											
第13回：意味論：意味地図・語彙化・文法化											
第14回：言語ドキュメンテーションとアーカイビング											
第15回：文字論・フィードバック											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

言語学の入門・概論クラスを履修していることが望ましいが必須ではない。東南アジア諸語に関する事前知識は不要である。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）（50％）およびレポート（50％）

[教科書]

授業中に資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初回授業で別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。授業を通して、履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 守田 貴弘			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>構造・機能相関論の観点から，文法知識のうち，知っているつもりではあっても改めて説明を求められると困るものについて考察する．このような文法的知識は自分の知っている言語から構築されていると考えられるが，その知識は知らない言語では通用しない可能性もある．具体的な言語現象の分析を学びながら，文法的知識が実はあいまいであることを理解しながら，確かな知識に至るための方法としてどのような方法が優れているのかという方法論的な問題も扱う．</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・理論言語学の方法に馴染み，身近な言語現象を言語学的に分析できるようになる． ・現象の記述と理論構築の緊張関係を理解し，科学研究においては目的に応じて適切な方法を選択することが必要になるという態度が必要であることが理解できる． 											
【授業計画と内容】											
<p>授業回数はフィードバックを含め，全15回とする．主に以下の3つのトピックについて，例示してあるような問題意識にもとづいてそれぞれ4回から5回で講義する．各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する．日本語，英語，フランス語を中心としながらも，馴染みのない言語についても議論する．</p> <p>(1) 主語という概念をめぐって 格とどのように違うのか，他の言語の事情はどうなっているのか，教育上の「意味上の主語」とは何なのか，主語はあった方がいいのか</p> <p>(2) 品詞分類の根拠を求めて 単語レベルで品詞は決まっているのか，名詞と動詞は本当に普遍的なものか，「内在的な思考と外在化された言語」という観点から，8品詞という伝統に関して</p> <p>(3) 「言語には意味がある」という思い込みについて そもそも意味が伝わるとはどういう現象なのか，意味の大半は無意識だという話，言語が意味伝達において果たしている役割はどの程度のものなのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業への積極的参加度,小レポート)40%,定期試験60%。試験では講義内容への理解度と,問題に対し自ら考えて論述する力を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は随時メールで受け付ける。一方通行の知識伝達型の授業というよりは,対話を重視しながら進めていくので,意見を述べることをためらわないでほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系21

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Gandhari and Indic Linguistics									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to Gandhari language and historical grammar of Middle Indic languages. Along with language and literature, the special script for writing Gandhari texts, namely Kharosthi script will be learnt as well. The reading materials include Khotan Dharmapada and inscription of King Senavarma. Therefore, this course provides glimpses into development of early Buddhism and early history of India as well as deposit of Buddha ' s relics.											
[到達目標]											
The participants will learn Kharosthi script, Gandhari language and historical grammar of Indic linguistics.											
[授業計画と内容]											
Week #01 Introduction: From Old-Indo-Aryan to Middle Indic Week #02 Introduction: Gandhara, Kharosthi script and Gandhari corpus Week #03 Introduction: Learn Kharosthi script and bilingual coins Week #04 Grammar: Historical grammar of Middle Indic Week #05 to #08 Reading: Dharmapada from Khotan Week #09 to #14 Reading: Senavarma inscription Week #15 Feedback											
[履修要件]											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系22

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
<p>This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.</p>											
【到達目標】											
<p>The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系23

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多言語情報処理論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。											
【到達目標】											
書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いので、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存文法とUniversal Dependencies (1回) 2. BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回) 3. 系列ラベリングと品詞付与 (1回) 4. 依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回) 5. 古典中国語(漢文)の文法解析 (2回) 6. 日本語の文法解析 (2回) 7. 英語の文法解析 (1回) 8. フランス語の文法解析 (1回) 9. タイ語の文法解析 (1回) 10. その他の書写言語の文法解析 (3回) 											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系24

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オセアニア諸言語概説									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の約四分の一がオセアニアに分布する。この講義ではオセアニアの諸言語の言語特徴についての知識を身につけてゆきながら、それらを例として言語研究の方法をまなぶ。後期は数詞、格、語順、言語系統、ピジン・クレオール、スイッチ・リファレンス、超分節音素などのトピックを取り上げる。											
【到達目標】											
オセアニアに分布する言語には南島語族(オーストロネシア語族)の諸言語、パプア諸語、オーストラリア諸語が含まれる。授業の到達目標は、この講義で取り上げるいくつかの言語類型特徴・言語現象と分析方法について理解するとともに、それらについて、オセアニアでは言語グループ別にいかなる傾向が見られるのか把握することである。											
【授業計画と内容】											
スケジュールは以下の通りだが受講者の理解度に応じて変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに オセアニアの言語についての統計情報 2~3. 数詞 4~5. 格 6~7. 語順 8~10. 文字、言語系統 11~12. ピジン・クレオール 13. スイッチ・リファレンス 14. 超分節音素 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Dixon, R. M. W. (2002) Australian Languages, Cambridge University Press.

Foley, William A. (1986) The Papuan languages of New Guinea, Cambridge University Press.

Lynch, John (1998) Pacific Languages: An Introduction, University of Hawai'i Press.

Lynch, John, Malcolm Ross, and Terry Crowley (2002) The Oceanic Languages, London: Curzon Press.

Palmer, Bill (ed.) (2018) The Languages and Linguistics of the New Guinea Area. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で多くの論文・書籍を紹介するので、復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系25

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系26

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松本 亮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シベリア諸言語研究									
[授業の概要・目的]											
ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。											
[到達目標]											
シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1～3回 シベリアの言語状況の概観 第4～8回エヴェンキ語を取り上げる 第9～13回ネネツ語を取り上げる 第14～15回ハンティ語を取り上げる											
[履修要件]											
言語学入門が履修スミであることが望ましい またロシア語の知識があるとなお良い(こちらはなくとも良い)											
[成績評価の方法・観点]											
授業中に課す数回の課題(60%)と最終まとめのレポート(40%)で評価する											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。 また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。 受講生が関心を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マニ教パルティア語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>マニ教パルティア語について講義する。パルティア語は中期イラン語に位置づけられ、中世ペルシャ語と共に、西イラン語に分類される。残された資料は紀元前1世紀以降のもので、碑文・貨幣銘・印章、羊皮紙や紙などに書かれた文書が知られているが、文書資料としてはマニ教の典籍がその殆どを占める。パルティア語によるマニ教文献は、中国新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されたもので、マニ教中世ペルシャ語よりも古い形式を残していることから、イラン語史研究において重要な位置を占める。また、古典アルメニア語は、パルティア語から語彙を借用しただけでなく、統語論の面でも影響を受けたことが指摘されており、古典アルメニア語の理解には、この言語の知識が欠かせない。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテクストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>マニ教パルティア語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自ら文献を読むことができるようになるとともに、古代ペルシャ語から現代ペルシャ語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけるマニ教パルティア語の位置づけ及び資料の紹介</p> <p>2 マニ教パルティア語の基礎【5週】 マニ文字 マニ教パルティア語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【8週】 出土文献資料の扱い方 マニ教パルティア語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Desmond Durkin-Meisterernst 『Grammatik des Westmitteliranischen (Parthisch und Mittelpersisch)』（Verlag der Oesterreichischen Akademie der Wissenschaften, 2014）

Christopher J. Brunner 『A syntax of western Middle Iranian』（Caravan Books, 1977）

Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Middle Persian and Parthian』（Brepols, 2004）

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』（London: Routledge, 2009）

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』（Ludwig Reichert Verlag, 1989）

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系28

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 6M351 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 横森 大輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		会話分析入門：やりとりの中の言語と行為									
【授業の概要・目的】											
<p>私達は、日々、言葉を使って生活しています。誰かを食事に誘ったり、仕事を依頼したり、知らないことについて尋ねたり、というように、私達は言葉を使うことを通じて様々な「行為」を遂行し、社会生活を成り立たせています。ところで、ある発言がやっている行為が「誘い」なのか「依頼」なのか「質問」なのかそれともそれ以外の何かなのかといったことは、どうやって決まるのでしょうか（話し手の側は、どのような工夫をすることで、自分の行為を他者にきちんとわかってもらえるのでしょうか。聞き手の側は、どのような手がかりを利用することで、他者の行為を読み取っているのでしょうか）。この授業では、会話における「行為」に焦点を当て、会話分析という学問分野の教科書講読とデータ分析実習を行います。そのような授業活動を通じて、会話という、一見ただごちゃごちゃした雑多な営みの中に構造とメカニズムを見出す分析スキルを養い、身の回りの日常会話はもちろん、SNSでのコミュニケーションやメディアで伝えられる著名人のやりとりなど、様々な相互行為を観察・理解するリテラシーを磨くことを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・現実の会話における言語使用の実態について理解を深める ・個々の語彙や構文が相互行為の中で果たす作用について分析できる ・「隣接対」「ターン（発話順番）」「リペア（修復）」「行為連鎖」など会話分析の基礎概念についての知識を理解する ・言語コミュニケーションの実例を観察して、会話分析の基礎概念を参照して分析を行うことができるようになる ・日常生活やメディアにみられるコミュニケーションに対して、学術的な視点から観察・理解を行うことができるようになる 											
【授業計画と内容】											
データ分析実習と教科書の講読を交互に実施します。											
<p>第1回 [講義] 会話における行為とは？：言語行為論から会話分析へ 第2回 [実習] 会話を収録してみる 第3回 [講読] 第4章：連鎖組織 (pp.77-88) 第4回 [実習] 会話を文字化してみる 第5回 [講読] 第4章：連鎖組織 (pp.89-105) 第6回 [実習] 行為のペアをみつける 第7回 [講読] 第8章第4節：他者修復開始の発話形式 (pp.206-217) 第8回 [実習] 行為のペアを分類する 第9回 [講読] 第2章：行為の構成と理解 (pp.28-36) 第10回 [実習] 相互行為プラクティス（実践）を見つける 第11回 [講読] 第2章：行為の構成と理解 (pp.37-48) 第12回 [実習] 相互行為プラクティス（実践）を記述する(1) 第13回 [講読] 第11章：全域的構造組織 (pp.259-273)</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

第14回 [実習] 相互行為プラクティス(実践)を記述する(2)

第15回 [実習] まとめ(受講生プレゼン)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業課題(予習課題、データ分析実習、発表担当)への取り組み:40点

期末レポート:60点

[教科書]

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』(勁草書房,2017年) ISBN:978-4326602964

[参考書等]

(参考書)

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実(編) 『会話分析の広がり』(ひつじ書房,2018年)

N.J.エンフィールド 『やりとりの言語学』(大修館書店,2015年)

[授業外学修(予習・復習)等]

・(隔週)教科書の予習(教科書の読解を補助する設問に、オンラインフォームから回答を提出する)

・(隔週)データ分析実習の作業

(その他(オフィスアワー等))

授業関連の連絡にはSlackを利用します。Slackを初めて使う方には初回(まで)に説明します。口頭での質問等がある場合は、授業前(火曜日昼休み)または別途調整した日程にて受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。											
第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ											
第2回 気流と発声											
第3回 破裂音											
第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音											
第5回 摩擦音、小テスト1											
第6回 摩擦音											
第7回 接近音、その他の子音											
第8回 非肺気流による子音											
第9回 非肺気流による子音、小テスト2											
第10回 子音のまとめ、表記練習											
第11回 第一次基本母音											
第12回 第二次基本母音、その他の母音											
第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト3											
第14回 総復習と発表											
第15回 総復習と発表											
小テストは第5回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要ならば次回以降の授業時（授業の前後）に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系31

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37											
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダ ナルチラ	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究											
【授業の概要・目的】													
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。													
【到達目標】													
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること (2) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。													
【授業計画と内容】													
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。													
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の疑似体験、グループ形成													
第2回 日本語学習者の初歩的動機/グループワーク : テーマ選定													
第3回 漫画・アニメ・J-Popの日本語/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第4回 教授法とシラバス/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第5回 日本語らしさとは?/グループワーク : 他言語との比較													
第6回 教室活動/グループワーク : 教案作成													
第7回 日本語の特質I/グループワーク : 中間発表の準備													
第8回 グループ別中間発表及び前半の総括													
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは?/グループワーク : テーマ選定													
第10回 「自然な日本語」とは?/グループワーク : 選定した学習項目の分析、他言語との比較													
第11回 教科書分析/グループワーク : 教科書分析と改善案													
第12回 社会・文化的要素への依存度の高い学習項目の扱い方/グループワーク : 使い分け基準													
第13回 誤用分析の方法/グループワーク : 誤用分析													
第14回 日本語の特質II/グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表													
第15回 フィードバック													
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----													

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：20%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：50%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系32

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	言語使用と文法 頻度と文法化										
[授業の概要・目的]											
本演習では、言語構造（文法）は実際の言語使用の経験に基づき創発すると考える使用基盤モデル（usage-based model）の立場から言語構造の形成と変容を説明した著書をテキストとして講読し、実際の言語使用における生起頻度や人間の一般的認知プロセスが文法システムの形成と変容にいかに関わるかを理解することを目的とする。											
[到達目標]											
言語使用や人間の一般的認知能力が言語構造の形成と変容に果たす役割について理解する。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、テキストの割り当てられた部分についてハンドアウトを準備して内容の解説を行なう。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 イントロダクション 第3回 A usage-based perspective on language 第4回 Rich memory for language: exemplar representation 第5回 Chunking and degrees of autonomy 第6回 Analogy and similarity 第7回 Categorization and the distribution of constructions in corpora 第8回 Where do constructions come from? Synchrony and diachrony in a usage-based theory 第9回 Reanalysis or the gradual creation of new categories? The English Auxiliary 第10回 Gradient constituency and gradual reanalysis 第11回 Conventionalization and the local vs. the general: Modern English ‘ can ’ 第12回 Exemplars and grammatical meaning: the specific and the general 第13回 Language as a complex adaptive system: the interaction of cognition, culture and use 第14回 総括 第15回 フィードバック （但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性がある）											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％）、討論への積極的な参加（10％）、期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language, Usage and Cognition』（Cambridge University Press, 2010）ISBN:978-0-521-61683-6

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	言語使用と文法 効率性と語順類型論										
[授業の概要・目的]											
本演習では、言語使用における効率性の観点から文法システムの通言語的変異の説明を試みた著書をテキストとして講読し、コミュニケーションにおける効率性や情報処理の容易さと、文法規則、とりわけ線形順序（語順）に関わる慣習との間にどのような関わりがあるかについて考察をめぐらせることを目的とする。											
[到達目標]											
言語使用における効率性と語順の類型との関係について考察することにより、語順が単なる語の配列にとどまらない影響を言語使用にまで及ぼすことを理解する。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、テキストの割り当てられた部分についてハンドアウトを準備して内容の解説を行なう。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 イントロダクション</p> <p>第3回 Language variation and the Performance-Grammar Correspondence Hypothesis</p> <p>第4回 Three general efficiency principles (1)</p> <p>第5回 Three general efficiency principles (2)</p> <p>第6回 Some current issues in relation to efficiency</p> <p>第7回 The conventionalization of processing efficiency</p> <p>第8回 Word order patterns: Head ordering and (dis)harmony</p> <p>第9回 The typology of noun phrase structure</p> <p>第10回 Ten differences between VO and OV languages (1)</p> <p>第11回 Ten differences between VO and OV languages (2)</p> <p>第12回 Asymmetries between arguments of the verb</p> <p>第13回 Multiple factors in performance and grammars and their interaction</p> <p>第14回 Conclusions・総括</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)</p>											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

【教科書】

John A. Hawkins 『Cross-linguistic Variation and Efficiency』（Oxford University Press, 2014）ISBN:978-0-19-966500-6

【参考書等】

（参考書）

John A. Hawkins 『Efficiency and Complexity in Grammars』（Oxford University Press, 2004）ISBN:978-0-19-925269-5

【授業外学修（予習・復習）等】

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系34

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ラトビア語入門									
【授業の概要・目的】											
インド・ヨーロッパ語族バルト語派のラトビア語の実践的な学習を通じて、系統をともにする、または異にする言語間に見られる、ことばの体系性や普遍性、相違点を明らかにする。											
【到達目標】											
ラトビア語の実践的な学習を通じて、ことばの普遍性や体系性、個別言語間の相違を明らかにする。ことばをその周辺の諸現象（文化、社会、歴史、技術革新など）に有機的に関連付ける視点を得る。既習の外国語や言語学の知識、言語学習の経験や学習に対する動機が、ゼロから半期で学ぶ言語の学習の進捗や理解度にどのように影響するかを自身で確かめる。											
【授業計画と内容】											
授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字と発音 2. be動詞、名詞と形容詞の性・数 3. 第2変化動詞、位格 4. 第3変化動詞、対格 5. 属格 6. 第1変化動詞、与格 7. 復習 8. 動詞未来形 9. 動詞過去形、アスペクト 10. 形容詞の定・不定 11. 複合時制 12. 命令法、願望法 13. 義務法、伝聞法 14. 復習 											
試験 フィードバック											
また、折に触れてラトビアの文化や社会についても紹介する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）

[教科書]

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』（白水社、2018）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内外に限らず、言語の学習では音読を重視します。

（その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系35

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語メディア言語学									
【授業の概要・目的】											
ロシア語メディア言語学に関するロシア語テキストを輪読し、現代メディアにおける言語使用や言語研究について知見を深める。											
【到達目標】											
<p>先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養う。 ロシア語の学術論文の読解力を向上させる。 自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ロシア語メディア言語学に関して、以下の概説的な文献で扱われる様々なメディア言語学の概念を2-3回の授業で読んでいく。その際、受講者にロシア語のメディアからの具体例を収集し、授業時に紹介してもらうことがある。</p> <p>Medialingvistika v terminax i ponjatijax. Slovar'-spravochnik. Moskva: Flinta. 2018.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 導入 3. 導入 4. メディアディスコース 5. メディアディスコース 6. メディアと文法 7. メディアと文法 8. メディアと語彙 9. メディアと語彙 10. 広告のことば 11. 広告のことば 12. ハイパーメディアテキスト 13. ハイパーメディアテキスト 14. 予備 15. 総括 											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

【履修要件】

ロシア語のテキストを辞書を用いて読むため、中級以上のロシア語の読解力が必要である。

【成績評価の方法・観点】

平常点（70％）と期末レポート（30％）で総合的に評価する。なお、平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
講読する箇所を授業時に配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

翌週の授業で扱うテキストの該当部分をあらかじめ予習しておくこと。
またテキストで扱われている事象の具体例を、（ロシア語または他の言語で）収集してきてもらうこともある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系36

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・旧ソ連諸国の言語状況									
【授業の概要・目的】											
ロシアや旧ソ連諸国における言語状況について体系的な知識を得る。											
【到達目標】											
言語と社会の関係性について基本的な知識を具体例とともに整理する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には講義形式で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 言語・民族・国家・社会 3. ロシア帝国・ソ連時代の言語状況 4. ロシア連邦の言語状況 5. ロシア連邦の言語状況 6. ロシア連邦の言語状況 7. ロシア語系住民 8. バルト3国の言語状況 9. バルト3国の言語状況 10. バルト3国の言語状況 11. ウクライナの言語状況 12. ベラルーシの言語状況 13. モルドバの言語状況 14. 中央アジアの言語状況 15. 総括 <p>授業回数は15回とする。</p>											
【履修要件】											
ある程度のロシア語の知識とキリル文字を読めること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からことばと社会の關係にアンテナを張っておいてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。											
[到達目標]											
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。											
[授業計画と内容]											
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、年30回の授業の中で少なくとも1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。 前期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ 後期 第1回 イン트로ダクション・発表 第2回～第14回 発表 第15回 発表・まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[教科書]

ハンドアウトを使用する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。

(その他(オフィスアワー等))

大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系38

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

【教科書】

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

行動文化学系39

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系40

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語中級									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系41

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45											
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 社会学部 准教授				松谷 実のり	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		社会調査入門(社会調査士科目A)											
【授業の概要・目的】													
<p>本講義では、社会調査の目的や意義、分類、方法と調査の具体例に関する基本的事項を学ぶ。量的調査と質的調査の違いを理解した上で、調査方法それぞれの特徴や実施上の注意点を理解する。社会調査のプロセスを把握し、社会調査の結果を読むため、および社会調査を自ら実施するための基礎的な技術を身につけることを目的とする。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>													
【到達目標】													
<p>社会調査の目的と意義、歴史を理解する。社会調査の種類とその違いを理解し、目的に合わせて使い分けられるようになる。社会調査のプロセスに関する基本的事項を理解する。</p>													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査の目的と意義 2.社会調査の歴史 3.社会調査の種類 4.社会調査の方法と設計 5.調査倫理 6.仮説と測定 7.全数調査と標本調査 8.既存統計の利用 9.質問紙調査の事例1 10.質問紙調査の事例2 11.質的調査の信頼性と代表性 12.ドキュメント分析の事例 13.参与観察の事例 14.インタビュー調査の事例 15.ナラティブ分析の事例 													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
レポート													
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----													

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系42

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ケアを包摂する社会と社会科学									
【授業の概要・目的】											
<p>ケアとは人が生きることを支える活動である。社会を維持するためには人間を維持しなければならないのは自明だが、コロナ危機においても明らかになったように、「経済を回す」ことは課題とされても、(とりわけ家庭での)ケア負担が正面から論じられることはほとんどない。わたしたちは「ケア」と「生」を排除する社会に生きていと言わざるをえない。しかしこれはすべての人間社会において当たり前なのではなく、「20世紀体制」という一時代の社会システムの構造的特徴であり、1970年代以降、転換が模索されている。</p> <p>本講義では、現代日本社会における子育ての困難とケアの不可視化という問題から出発し、「20世紀体制」の成立と変容を縦軸、日本とアジア、欧州、北米等との比較を横軸として、生とケアを包摂する社会への転換が世界各地でどのように模索されているかを検討する。さらに、こうした転換の指針となる理論的枠組みとして、世界の研究者が構築をめざしている「生とケアを包摂する社会科学」の基本的考え方を紹介する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「20世紀体制」の特徴を学び、それが歴史的に一時代のものでしかないことを理解する。 2. 人口転換、福祉レジーム、ケアの家族化/脱家族化など、この問題にアプローチするために必要な概念や理論的枠組みを学ぶ。 3. 世界の諸地域の国々と比較して、日本の現状にはどのような問題があるのかを知り、そこから脱却するための展望をもつ。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の子育て困難と視えないケア 2 アジアの子育てネットワーク(1) 3 アジアの子育てネットワーク(2) 4 アジアの高齢者 5 グローバル化した家族 6 アジア女性は主婦になるか 7 社会的ネットワークから福祉レジームへ 8 人口転換と近代 9 社会的再生産の20世紀体制 ケアの不可視化 10 20世紀体制からの転換 人口・労働・ジェンダー 11 ケアの家族化/脱家族化 12 分岐する世界 欧州の道・北米の道 13 分岐する世界 日本の道・他のアジア諸社会の道 14 親密圏と公共圏の再編成 生とケアを包摂する社会へ 15 質疑と討論 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

落合恵美子 『21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超え方(第4版)』(有斐閣, 2019年)
落合恵美子編 『親密圏と公共圏の再編成 アジア近代からの問い』(京都大学学術出版会, 2013年)

【授業外学修(予習・復習)等】

参考書や授業中に指示する参考文献を読む。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
[授業の概要・目的]											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
[到達目標]											
本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ</p> <p>第2回 雇用システムと労使関係</p> <p>第3回 企業内労働市場の形成</p> <p>第4回 日本型雇用システム</p> <p>第5回 日本労働市場の形成</p> <p>第6回 日本労働市場の変容</p> <p>第7回 賃金格差と社会階層の変化</p> <p>第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化</p> <p>第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題</p> <p>第10回 失業と非正規雇用の国際比較</p> <p>第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題</p> <p>第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係</p> <p>第13回 自動車産業と労働市場の国際比較</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートによる(100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸女学院大学 文学部 准教授 戸江 哲理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		会話分析入門									
【授業の概要・目的】											
<p>会話分析 (Conversation Analysis) はさしあたり、アメリカの社会学者、ハーヴィー・サックスとその共同研究者たちによって編み出された、社会的行為 (やりとり) の「しくみ」を捉える手法とその知見の蓄積といえると思います。人間の社会は、(とくに言葉を使った) 行為に拠って立つところが大きいので、会話分析は社会的行為のしくみを明らかにすることを通じて、「社会的世界」(social world) を記述することにもなります。この授業では、会話分析がこれまでに明らかにしてきた、やりとりの「しくみ」を紹介し、それらの知見を活かして、自分でやりとりの分析をするやりかた、そして、それらを通じて明らかになる社会的世界の知見についても紹介できたらと思っています。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話分析の基本的な概念を友達にわかりやすく説明できる ・ 会話分析の手法を用いた初歩的な分析ができる ・ 会話分析の知見に社会学的な意義を見出すことができる 											
【授業計画と内容】											
<p>会話分析の知識と技術を学んでもらうために、講義 (やりとりのしくみの説明) と実践 (やりとりのしくみを発見する練習) を組み合わせて行いたいと思っています。グループワークを導入することで、より大きな学習効果を期待しています。具体的な授業計画は、集中講義の日程 (日数・一日当たりのコマ数) などとも考慮して詳細を詰めていきたいと思っていますが (その意味で軌道修正もありえます)、現時点では (仮に5日間・一日当たり3コマとして) 次のような内容を予定しています。</p>											
<p>Day 1 会話分析の基本的な考えかたのひとつは、「発言は受け手に合わせてデザインされる」です。人間の呼びかたを例に考えます。 第01講 会話分析はコミュニケーションをどう捉えるのか 第02講 人物指示 講義編 第03講 人物指示 実践編</p>											
<p>Day 2 行為は、人々のやりとりを構成する基本的な単位であり、同時に会話分析の基本的な分析単位でもあります。そこを考えます。 第04講 どうして会話分析が社会学になるのか 第05講 行為・発言の組み立て 講義編 第06講 行為・発言の組み立て 実践編</p>											
<p>Day 3 行為はえてして、その行為に合致する別の行為を必要とします。そこを考えます。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

第07講	隣接ペア・行為の連鎖	講義編
第08講	隣接ペア・行為の連鎖	実践編
第09講	子育てひろばの会話分析	行為の連鎖

Day 4

担当者は、悩み語りや助言について長らく研究してきました。そこを重点的に考えます。

第10講	悩み語り・助言	講義編
第11講	悩み語り・助言	実践編
第12講	子育てひろばの会話分析	家族社会学・子ども家庭福祉との関連

Day 5

担当者は、子どもに対する注意とそれへの子どもの反応について研究してます。そこを重点的に考えます。

第13講	注意	講義編
第14講	注意	実践編
第15講	会話分析とフィールドワーク	

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（小テスト、小レポート、授業内での発言、グループワークへの取り組みなど）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

串田秀也・平本毅・林誠 『会話分析入門』（勁草書房，2017年）
高木智世・細田由利・森田笑 『会話分析の基礎』（ひつじ書房，2016年）
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実編 『会話分析の広がり』（ひつじ書房，2018年）
戸江哲理 『和みを紡ぐ』（勁草書房，2018年）

（関連URL）

<http://emca.jp/learn>(日本エスノメソドロジー・会話分析研究会によるエスノメソドロジー・会話分析の紹介です。受講するかどうかの判断材料にさせていただけたらと思います。)

【授業外学修（予習・復習）等】

やりとりのデータを分析する課題や文献を読む課題、グループワークの成果を取りまとめる課題などを想定しています。

社会学(特殊講義)(3)へ続く

社会学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

もっぱら担当者の都合で、暑い時分での集中講義になりました。ただ、集中講義になったことで、グループワークなどはやりやすくなったともいえるかもしれません。集中講義ならではの授業にできたらと思っているところです。よろしくお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系45

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 先端総合学術研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法論									
【授業の概要・目的】											
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものや状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であることの社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%。

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 社会学部 教授 守 如子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジェンダーとメディア研究									
【授業の概要・目的】											
<p>メディアは様々な点でジェンダー（社会的・文化的性差）と深い関わりを持っている。広告やドラマ、ニュース報道における「男性」「女性」の表現のされ方の違いや、男女によるメディアの利用の仕方の違いなどを考えてみてほしい。（1）メディアの送り手、（2）メディアが伝達するメッセージ、（3）メディアの受け手、というそれぞれの局面において男女の差異を見いだすことができるだろう。本講義では、「送り手」「メッセージ」「受け手」の各局面においてジェンダーが担っている社会的機能を、社会学やメディア研究、ジェンダー論などの理論を参照しつつ、検討していく。</p>											
【到達目標】											
<p>ジェンダーとは、人が生まれて性別のレッテルを貼られた時点から、しつけ、学校など、さまざまな日常生活の過程を通じて日々実践され、構築されるものである。このジェンダーの構築に際して、現代社会ではメディアの果たす役割が大きいことが指摘されている。</p> <p>メディアの多様な側面に着目し、それぞれの過程におけるジェンダー性を読み解くことを通じて、メディア研究の視点を理解してもらおうと同時に、ジェンダーの構築性も理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には下記の授業計画に基づき授業を進める予定であるが、順番および具体的な内容について変更する場合がある。</p> <p>第1回 「ジェンダー」とは何か ジェンダー概念の基礎知識 第2回 映画における女性と男性の描かれ方 第3回 言葉とジェンダー、ジェンダーバイアス 第4回 雑誌とジェンダー 第5回 テレビとジェンダー 第6回 メディアの送り手とジェンダー 第7回 少年マンガ、男性マンガ 第8回 恋愛と結婚 少子化をめぐって 第9回 親子関係と母性愛神話 第10回 スポーツ報道とジェンダー 第11回 若者の性の現状とLGBTQの基礎知識 第12回 ジェンダーと暴力 第13回 買春とポルノグラフィ 第14回 ファン研究 BLを題材に 第15回 フィードバック</p> <p>* 期末レポートの詳細については、初回の授業で告知する。締め切りは、7月上旬を予定。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する（100％）。

・レポートの評価基準については、授業内容を踏まえていることを基準として、独自の工夫をしている場合には高い評価を与える。詳細については、最初の回で告知する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

国広 陽子・他編 『メディアとジェンダー』（勁草書房，2012）

井上輝子・他編 『新編 日本のフェミニズム 7 表現とメディア』（岩波書店，2009）

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』（法律文化社，2018）

参考文献は授業内でも適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。また、レポート作成を計画的に取り組むこと。

（その他（オフィスアワー等））

本務校が別なため、大学へは授業時にしか行きません。問い合わせたいことがある場合には、授業の終了後にお尋ねいただくか、nmori@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系47

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familialism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familialism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Economic development in Asia 2. Demographic change 3. Diversity of political system 4. Development and migration 5. Feminization of labor and migration 6. Ageing and migration 7. Population policy and marriage migration 8. Social integration/multicultural policy 9. Logic of human rights and migration 10. Policy of sending countries 11. International labor market formation 12. International collaboration and mutual benefit 13. Welfare Regime / Familialism 14. Pandemic and migration 15. Conclusion 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

Papers and related documents will be distributed in class.

【参考書等】

(参考書)

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestic Workers and New Rich Employers in Taiwan, Durham and London: Duke University Press.

Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

【授業外学修（予習・復習）等】

Participants may be required to read papers related to the class

(その他（オフィスアワー等）)

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 溝口 佑爾			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、社会調査や官庁統計などで得られたデータ(数量的データ)を分析する際に必要となる、基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。具体的には、数量的データの特徴とその作成方法について簡単に解説した上で、一変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、二変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。											
【到達目標】											
本講義の到達目標は以下の4つです。 01. 数量的データの特徴とその分析方法を理解する 02. 一変数の情報を適切に記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標など)を理解する。 03. 二変数の関係を適切に分析する方法(クロス集計表、相関係数など)を理解する。 04. 1~3をつうじて、統計分析を含んだ情報(マスコミ・専門論文)を適切に評価できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の授業内容を組んでいます。ただし受講生のスキル、理解度に応じて順序や回数を変えることがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学を学ぶのか?: 社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学 2. 量的調査法の基本発想: データの縮減、量的調査と統計学の関係 3. データの縮約I: 度数分布、ヒストグラム 4. データの縮約II: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位偏差 5. 分布を比較する: 標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図 6. 量的調査の方法: 調査票とデータセットの作成 7. 既存統計資料の活用: 収集方法と読み方 8. データの種類: 数量データ、カテゴリカルデータ、順序カテゴリカルデータ 9. 2つの変数の関係を分析するI: 二重クロス集計表、オッズ比、ファイ係数、クラマーのV 10. 2つの変数の関係を分析するII: 散布図、相関係数、ピアソンの積率相関係数 11. 2つの変数の関係を分析するIII: 単回帰分析 12. 2変数の関係を分析するIV: 変数間の関連の意味、相関関係と因果関係 13. 擬似相関と変数の統制I: 疑似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数 14. 擬似相関と変数の統制II: 因果推論、実験とリサーチデザイン 15. より高度な統計分析に向けて: 推測統計学、多変量解析 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出す課題（45点 = 15点 × 3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

谷合廣紀 『Pythonで理解する統計解析の基礎』（技術評論社）ISBN:978-4297100490

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4478039472

[授業外学修（予習・復習）等]

・ Google Colaboratoryを用いた演習を計画しています。Googleアカウントを持っていない方は授業開始前に作成してください。

・ スマートフォンに加えてノートPCやタブレット等の情報機器がある程度使いこなせることを前提とします。

・ 情報機材を教室内からインターネットに接続した状態での受講を求める場合があります。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系49

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 現代社会学部 准教授 東 園子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		やくざ映画とジェンダー									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、1960～70年代の日本のやくざ映画を、ジェンダー論の観点から分析する。やくざの世界を描くやくざ映画は、1960年代から1970年代にかけて大量に制作され、激しい殺陣等のアクションや義理人情に厚い主人公像などが男性客を中心に人気を博し、当時の日本映画の主要なジャンルの一つだった。</p> <p>やくざ映画には「男」へのこだわりが見られ、女性の描き方も含めて、ジェンダー論的に興味深い対象となっている。</p> <p>授業では、実際にやくざ映画を鑑賞し、そこで描かれる男性像・女性像や、その変化等を分析する。</p>											
【到達目標】											
映画をジェンダー論の観点から分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の予定に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいなどによって順序や内容を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～3回 映画のつくり 第4～6回 任侠映画の基本的性質 第7回 やくざ映画の時代背景 第8～9回 男同士の関係と女性 第10～11回 男社会の中の女性 第12～15回 任侠路線から実録路線へ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（毎回の小レポート） 100点											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習 前回の授業内容の再確認。
復習 ノートを整理し、授業内容を振り返り、課題映画に対する考察を深める。

(その他(オフィスアワー等))

・授業で見ってもらう映画には字幕はなく、暴力的な表現が含まれます。

・オンライン授業になった場合、授業で用いる課題映画を、動画配信サービス等を利用して自分で見ってもらうことになります。
そのため、利用するサービスにもよりますが、最大で2~3000円程度の費用がかかる可能性があります。
それを承知の上で受講してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系50

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学データサイエンス学部 伊達 平和 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の意義と作法（社会調査士科目B）									
【授業の概要・目的】											
質問紙調査は、社会に関するデータ収集の方法として、官民間問わず多くの現場で必要不可欠なものとなっているが、正しい方法を理解していないと求める結果を得ることはできない。また、標本調査に関する正しい知識は、他人の論文・レポートを読む際に必要不可欠である。本授業では、標本調査を適切に実施し、正しい結論を得ることができるようになることを目的とする。授業内で質問票の作成を行いGoogle form, ExcelとRを利用する。											
【到達目標】											
標本調査を実施するために必要となる、調査設計・標本抽出・調査票作成・データ収集・データ集計・結果解釈の手法を理解できることを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 社会調査の基礎知識 : 調査の手順と仮説の立案 3 社会調査の基礎知識 : 量的調査と質的調査 4 文献調査と統計調査 5 文献のレビュー 6 理論仮説と作業仮説 7 調査票の構成と質問文の作り方 8 調査票のレビュー 9 Google formを用いた質問票の作成実習 10 Google formを用いた質問票の作成実習 11 サンプルングと標本誤差 12 調査実務：予算管理、プリテストと実査、調査票の配布と回収 13 調査データの整理：コーディングとクリーニング 14 Rを用いた集計と結果の解釈 15 Rを用いた集計と結果の解釈 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間でレポート（30%） + 最終のレポート試験（50%） + 平常点（20%）を基本とするが、授業の進度に応じて調整をする可能性がある。											
【教科書】											
伊達平和・高田聖治 『社会調査法』（学術図書出版）ISBN:978-4-7806-0704-8 教科書の内容をふまえて授業を構成するが、授業の方が教科書より詳しい場合、授業では解説しな											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

い内容も含まれているため、適宜予習・復習に利用してください。

[参考書等]

(参考書)

社会調査関係の多くの教科書が出版されている。授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

Google form, ExcelとRを利用した実習を行う。実習は授業内でも行うが、授業外での復習が必要不可欠である。

(その他(オフィスアワー等))

授業形態ならびに授業実施場所(情報処理の教室など)を変更する場合がありますので、大学からの連絡をこまめに確認すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系51

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 岡邊 健			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士科目E)									
【授業の概要・目的】											
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法の考え方とその利用方法について学習する。3元クロス表の分析(エラボレーション)、分散分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、順次解説する。											
【到達目標】											
多変量解析の考え方と利用法を身につけ、それらを自身の研究課題と結びつけたうえで、統計ソフトウェアによる解析や結果の考察を行なうことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 統計ソフトウェアSPSSの操作の基本 3. 推測統計の復習 4. 2元クロス表と関連の指標 5. 3元クロス表の分析(1) 見せかけの関係 6. 3元クロス表の分析(2) 媒介変数による解釈 7. 分散分析 8. 相関と単回帰分析 9. 重回帰分析(1) その基本 10. 重回帰分析(2) 決定係数、偏回帰係数の検定 11. 重回帰分析(3) ダミー変数、多重共線性 12. ロジスティック回帰分析 13. 回帰分析の総合演習 14. 主成分分析 15. 復習とまとめ 											
【履修要件】											
社会調査士科目のB科目とC科目(いずれも他大学で開講された科目を含む)を履修した者に限る。同A科目とD科目を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の提出物(20%) + 定期試験(50%) + 最終レポート(30%) これらにより、到達目標について、文学研究科の評価方針に従って評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中では実際の調査データを用いた演習を行なうが、事後の復習がなければ習得は容易ではない。毎回の復習に、少なくとも1時間程度の時間は割いてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系52

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か</p> <p>第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第4回 メディア都市の成立</p> <p>第5章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第6回 大衆新聞の成立</p> <p>第7回 視覚人間の国民化</p> <p>第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第9回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第10回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第11回 テレビによるシステム統合</p> <p>第12回 情報化の未来史</p> <p>第13回 脱・情報社会へ</p> <p>第14回 総論・試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

【教科書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

【参考書等】

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN:9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践のために。）
佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

【授業外学修（予習・復習）等】

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア学の初学者は佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系53

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		情報ネットワーク社会論									
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
以下の計画で15週の講義をおこなう。											
1 オリエンテーション											
2 情報ネットワーク社会への視点											
3 日本社会の情報化 情報化の現代史(1)											
4 アメリカ社会の情報化 情報化の現代史(2)											
5 監視社会論 社会システムの情報化(1)											
6 リスク社会論 社会システムの情報化(2)											
7 経済システムの情報化 社会システムの情報化(3)											
8 ネット空間の展開 生活世界の情報化(1)											
9 再帰的近代化としての情報化 生活世界の情報化(2)											
10 生活世界のリアリティの再構築 生活世界の情報化(3)											
11 公共圏の情報化											
12 親密圏の情報化											
13 公共圏/親密圏の再編成											
14 情報ネットワーク社会論の再構築											
15. フィードバック (PandA上で実施)											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
素点(100点満点)で評価する。											
・ 平常点(40点)+期末レポート(60点)											
・ 平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による (詳細はオリエンテーションで説明)											
・ 素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
- ・ 資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること(必ずしも印刷の必要はない)
- ・ PandAサイトで復習用課題を実施する(詳細は初回授業で説明)

(その他(オフィスアワー等))

PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する(利用方法は初回の授業で説明)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系54

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 国際関係学部 教授 Rajkai Zsombor			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Multiple Modernities (Socialist Modernisation)									
【授業の概要・目的】											
<p>This course introduces students to the study of multiple modernities, with a special attention to socialist modernisation as a remarkable state-led experimental modernisation in human history. Though socialist modernisation tends to be underscored (and even neglected) in the mainstream academic discourse in the Post-Cold War era, it (has) affected the lives of people in the entire Eastern European and Central Asian regions, as well as those of (more than 80% of) people living in the East Asian region. Given its wide impact on the Eurasian continent, this course aims to provide a detailed insight into the socioeconomic and sociocultural characteristics and implications of socialist modernisation. The course is divided into three main parts: introductory part (historical review and analytical framework), central part (discussions of topics related to the political and economic spheres, civil society and the private sphere), and the final part (discussions on the current conditions and contested futures).</p>											
【到達目標】											
<p>1. The students will acquire a broad-based understanding about the various paths of social change from traditional to modern, with a special attention to the socialist path of modernisation.</p> <p>2. The students will learn a set of related concepts and theories that will help them to deepen their knowledge on the path of modernisation in general. In doing so, they will also obtain a basic insight into fundamental academic dilemmas regarding modernisation.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 Orientation (Course Briefing)</p> <p>Week 2 Multiple Modernities</p> <p>Week 3 Historical Review</p> <p>Week 4 Analytical Framework</p> <p>Week 5 The Socialist Man</p> <p>Week 6 State Control and Responsibility</p> <p>Week 7 Planned Economy</p> <p>Week 8 Socialist Industrial Towns</p> <p>Week 9 Cultural Life</p> <p>Week 10 Civil Society</p> <p>Week 11 Family and Socialism</p> <p>Week 12 Gender Relations</p> <p>Week 13 Socialism in the Post-Cold War Era</p> <p>Week 14 Socialist Ideas and Globalisation</p> <p>Week 15 Summary (Course Review); Submission of the Term Report</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 40%: Class performance
- ・ 60%: Term report

Note: students can submit the term report either in English or Japanese.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Shmuel N. Eisenstadt 『Multiple Modernities』 (Routledge) ISBN:978-0765809261

Zsombor Rajkai 『Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies Change and Continuity in Eastern Europe and East Asia』 (Brill Academic Publishers) ISBN:978-90-04-27683-3

【授業外学修(予習・復習)等】

It is strongly recommended that - besides carefully reading the distributed class materials - students should also make efforts in taking notes of the provided class materials. Taking notes is an active learning tool that is complementary to passive learning tools such as 'listening' or 'reading'.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 溝口 佑爾			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査のための統計学(社会調査士科目D)									
【授業の概要・目的】											
<p>社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計的な手法について、その原理と適用方法を修得することが本講義の目的である。確率分布とモーメント母関数に関する理解を下地とし、中心極限定理およびその応用としての推測統計(区間推定と仮説検定)について解説する。本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)に対応している。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査に必要な統計学の基礎を修得する。 ・統計解析がどのような原理に基づいているのかを理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 データの縮約と記述統計 変数と尺度 データの縮約</p> <p>第2回-第8回 確率変数と確率分布 離散型の確率分布 確率変数 1変数の記述統計 2変数の記述統計 離散変数と連続変数 連続型の確率分布 正規分布と連続型の確率分布 モーメント母関数 大数の法則と中心極限定理 母集団と標本</p> <p>第9回-第14回 推測統計 推測統計の発想 区間推定 仮説検定 回帰分析と相関係数 重回帰分析 多変量解析の意義</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

高校卒業程度の数学の知識を有していることが前提である。

【成績評価の方法・観点】

定期試験（60％）と平常点（小テスト等：40％）による。

【教科書】

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056
馬場敬之 『統計学キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866152080

【参考書等】

（参考書）

石井俊全 『意味がわかる統計学』（ペレ出版）ISBN:978-4860643041
石井俊全 『意味がわかる多変量解析』（ペレ出版）ISBN:978-4860643980
篠原清夫・榎本環・大矢根淳・清水強志 『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂）ISBN:978-4335551338
馬場敬之 『微分積分キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151878

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書、参考文献を予習・復習に十分に活用し、理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 柴田 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間行動論 (Human Behavior)									
【授業の概要・目的】											
<p>この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ 身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？ そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？</p> <p>「幸福感」は、人間の社会的行動の主要因の一つであるとともに、行動主体にとって重要な結果の一つでもある。そのため、上記の問いはすべて、人間の社会的行動についての重要な問いといえる。</p> <p>そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者とともに上記の問いへの答えを考究する。 (なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学I」・後期「社会学II」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。多角的な理解を深めるためには「社会学I」「社会学II」の受講も推奨する。)</p>											
【到達目標】											
人間の社会的行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、主に担当教員（柴田）の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて、順を追って詳しく紹介していく。</p> <p>その際、参考として以下の内容も必要に応じて紹介する（ただし授業回とテーマの対応は目安であり、受講者の状況などに応じて順番や内容を変更する可能性がある）。</p> <p>また、一方的な講義にならないように、Googleスプレッドシートを使った意見交換なども適宜行う。</p>											
第1回		幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(1)						討論			
第2回		幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(2)						PDF「保育・幼児教育は機会格差を軽減する」			
第3回		幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(3)						PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第1～7節			
第4回		幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(4)						PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第8節			
第5回		幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(5)						PDF「職業訓練の自殺予防効果」			
第6回		どうしたら幸せに生きられるのか(1) 遺伝子と行動						PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.1～11.2			
第7回		どうしたら幸せに生きられるのか(2) 環境と社会保障						PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.3～11.5			
第8回		資本主義と社会保障の起源						PDF「資本主義と社会保障の起源」			
第9回		社会保障の効果						PDF「子どもの貧困と子育て支援」			
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

- 第10回 社会保障の未来(1) 内閣府「選択する未来2.0」講演資料(PDF配布)
第11回 社会保障の未来(2) 内閣府「選択する未来2.0」講演資料(PDF配布)
第12回 社会の未来(1) PDF「不可知性の社会」244～260頁
第13回 社会の未来(2) PDF「不可知性の社会」260～272頁
第14回 これからの社会をどう生きるか、どう変えるか
第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末レポート(100点満点)によって評価する。
評価方針としては、到達目標の達成度を、文学研究科の成績評価の方針に従って評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

柴田悠『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』(勁草書房)ISBN:4326654007(社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)
柴田悠『子育て支援と経済成長』(朝日新聞出版)ISBN:4022737069(朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んでおくこと。事前に文献を読んでいることを前提に講義を進める。文献が指定されていなければ、次回の内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。また、学期末レポートの執筆にむけて、適宜学習を進めておくこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、講義中かPandAフォーラムで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

(その他(オフィスアワー等))

総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部と共通の授業。

履修人数を意見交換に適した人数に制限する可能性がある。

また、Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業を行う場合は、履修者全員がそれに参加可能な通信環境(例:通信容量制限なしに安定したビデオ通話ができる環境)にあることを前提に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		家族とジェンダーの比較歴史社会学 日本とは何か									
【授業の概要・目的】											
<p>歴史社会学と比較社会学は時空を超えて社会の構造を比較する方法である。社会学とは社会の構造を明らかにする学問であるとするれば、社会学の王道と言ってよいだろう。ある社会の構造はその社会だけを観察しても十分にはわからない。他の構造をもつ社会と比較することにより初めて明らかとなることもある。</p> <p>本講義では、そのような意図をもって実施した2つのプロジェクトの方法と成果を紹介することを通じて、日本家族および日本社会とはどのようなものであるかを考える。日本家族は「家」と呼ばれ、日本社会論の要の位置を占めてきた。</p> <p>前半は、歴史人口学のプロジェクトを扱う。アナル学派、ケンブリッジグループなどの社会史研究の方法的柱のひとつである歴史人口学は、国際比較が発達した学問分野である。1990年代後半から実施したユーラシアプロジェクトおよびそれ以降の成果を中心に紹介し、「家」らしい日本家族が徳川時代の終盤に成立した過程を宗門人別改帳のデータベースを用いた分析結果から再現する。</p> <p>後半は、アジア諸国の国内でもっとも影響力のある学問的業績を収集し翻訳して共有する「アジアの知的共有財産」プロジェクトの最初の成果であるAsian Families and Intimacies (Sage, 2021)および『リーディングス アジアの家族と親密圏』（有斐閣 2022年）に基づき、家族とジェンダーのグローバルヒストリーを貫く論理を考察する。</p> <p>全体を通じて、世界の家族とジェンダーについての全体像を描くと同時に、日本とは何かという問いに答えを出したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史人口学の方法と成果の概要を学ぶ。 2 家族とジェンダーのグローバルヒストリーを貫く論理について考える力をつける。 3 家族とジェンダーに注目することにより、日本とは何かという問いにどのような答えを出せるかを論じられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史社会学と比較社会学の社会理論 2 歴史人口学という方法 3 歴史人口学と家族史 4 家と直系家族 5 徳川日本のライフコース 6 徳川日本の家族と地域性 7 日本化する日本家族 8 アジアの重層的多様性 9 父系的社会 10 双系的社会 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

- 11 双系的社会の父系化
- 12 近代化による疑似父系化
- 13 グローバル化
- 14 家族とジェンダーのグローバルヒストリーと日本
- 15 質疑と討論

第9～13回では、受講者が参考書中の章を読んで内容を発表する機会を設ける。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

落合恵美子編 『徳川日本のライフコース 歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房, 2006年)

落合恵美子編 『徳川日本の家族と地域性 歴史人口学との対話』(ミネルヴァ書房, 2015年)

落合恵美子・森本一彦・平井晶子編 『リーディングス アジアの家族と親密圏』(有斐閣, 2022)

OCHIAI Emiko and Patricia UBEROI eds. 『Asian Families and Intimacies』(Sage, 2021)

Ochiai Emiko and Hirai Shoko eds. 『Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography』(Brill, 2022)

【授業外学修(予習・復習)等】

参考書を読み、発表の準備をするなど。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Title Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This class will cover social research methods, particularly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through observation, interviews, questionnaires, etc., and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, how people think and why they think the way they do, and finally, we believe that researchers approach social reality through research. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue. In addition, since this class is mainly for the Joint Degree Master of Arts Program in Transcultural Studies, fieldwork in Kyoto City will be conducted in addition to reviewing previous academic works on Japanese social institutions.</p> <p>About Japanese Social Institutions and Fieldwork The main topics will be multiculturalism and Buraku (outcast community). The fieldwork will take place in Higashikujo in Kyoto City, where Korean residents, newcomers to Japan, and other foreigners live. Outcast communities have been historically formed and are scattered throughout Kyoto City. Although they have already disappeared institutionally, the discrimination itself remains today and is also considered important as a historical lesson. In this class, we will continue to learn about the historical background of the Outcast community and learn about the Outcast community today through visits to archives and other facilities.</p>											
【到達目標】											
<p>To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. qualitative research: methodology and theory (1) 3. qualitative research: methodology and theory (2) 4. qualitative research: methodology and theory (3) 5. history and society (outcast community field visit) 6. field visit to community 7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center) 8. listening and writing anthropology 9. education in Japan (field visit to public schools) 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization)
 11. Action research
 12. Students workshop (1)
 13. Students workshop (2)
 14. Students workshop (3)
 15. conclusion / feedback
- schedule may change due to scheduling.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【授業外学修（予習・復習）等】

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

(その他（オフィスアワー等）)

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 直野 章子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		記憶研究概説									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、記憶研究という新しい学際領域における主要な論点を、社会学的な関心に沿って検討することにある。記憶研究においては、記憶とは現在における過去の再構成であるという現在主義が主流であるが、他方で、過去の痕跡として記憶を捉える立場がある。社会学的記憶研究においては、アルバックスの集合的記憶論を参照しながら記憶の社会的枠組みを分析するものが多数を占めるが、他方で、集団の記憶の持続性に着目して、社会の結束や維持のメカニズムとして集合的記憶を論じる研究もある。この講義では、記憶研究において「記憶」がどのように概念化されてきたのかを概観した後に、集合的記憶論とその現代的展開を検討する。その上で、記憶研究における中心的な論点の一つである「トラウマ記憶」について、具体例を交えながら社会学的に考察し、記憶研究における二つの立場の接合可能性について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>記憶研究における二つの理論的立場を理解したうえで、現代社会における記憶をめぐる論争を社会学的に考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進める。ただし、講義や発表、ディスカッションの進み具合により、同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：記憶研究という領域 2：記憶の概念史（1） 3：記憶の概念史（2） 4：記憶の主体 5：集合的記憶（1） 6：集合的記憶（2） 7：集団の記憶の伝承（1） 8：集団の記憶の伝承（2） 9：記憶の政治学（1） 10：記憶の政治学（2） 11：トラウマの概念史（1） 12：トラウマの概念史（2） 13：トラウマ記憶と社会（1） 14：トラウマ記憶と社会（2） 15：フィードバック 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

参照テキストは主に日本語のものを使うが、英語の文献も使用するため、英語論文の読解能力が必要となる。

[成績評価の方法・観点]

担当文献の報告(40点)、討論への積極的な参加(20点)、レポート(40点)により評価する。レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する。
3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がないかぎり、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義形式での解説と指定文献の発表、ディスカッションで授業を進めていくため、指定された文献を読んでおくこと(予習)が必須である。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業後に行う、もしくは、事前にアポイントメントを取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系60

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 竹沢 泰子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人種・エスニシティ論									
【授業の概要・目的】											
<p>本年度は、人種差別・偏見・ステレオタイプについて考えたい。人は、森羅万象の情報を記憶するために分類を行う。しかし、分類行為自体は普遍的であるものの、分類の指標や境界は、社会的状況により可変的である。その分類が誰によって何のために創られ、どのような結果を招いたのかを、我々社会科学・人文学を学ぶ者は注視しなければならない。授業では、人種概念の成り立ちから、「コーカソイド」「モンゴロイド」等の用語が孕む西欧中心主義、人種とジェンダーの交錯、また現代における日常的な無意識の偏見やマイクロアグレッションについても扱う。動画やドキュメンタリーも一部使用する。大学院生は、授業の一部において課題論文に関する発表も行う。</p>											
【到達目標】											
<p>人種、民族、エスニシティ、ステレオタイプ等の基本的概念の定義を理解する。人種主義は、社会システムと個人の偏見が両輪となって引き起こされるものであることを理解する。これらに関する基本的文献を読解し、社会システムや個人の偏見に対する意識を高める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オンディマンド授業「ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題」 第2#12316 4回 現代における人種差別 「人種」「民族」「エスニシティ」「ステレオタイプ」等の定義 第5回 課題論文に関する発表とディスカッション 第6回 オンディマンド授業「With コロナ時代における人間の「ちがい」と差別」ほか 第7#12316 9回 科学的人種主義 人種とジェンダー 第10回 課題論文に関する発表とディスカッション 第11#12316 14回 「システムック・レイシズム」とは？ 人種主義に抗うために 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
英語文献の基本的読解力											
【成績評価の方法・観点】											
<p>出席・提出物・討論、40% 発表 20%、学期末レポート40%</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

指定論文（コピー・PDFなど）

[参考書等]

（参考書）

事前に受講予定者に配布する詳細なシラバスに記載

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：毎週の課題論文を授業前に読んでおく。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはアポイントメント制

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学大学院教育学研究科 仁平 典宏 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言説研究の社会学的基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論/理論は、知識社会学から、言説分析、構築主義、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説/社会(実態)の関係に関する認識論的な前提が厳しく問われることもある。</p> <p>本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか概括的に把握し、基本的な視座を習得することをめざす。</p> <p>基本的に論文の講読とディスカッションを通じて内容の理解を進めていくが、授業後半には計量テキスト分析を実際に行い、その手続きとロジックの基礎を学ぶワークも実施する。</p> <p>なお受講者は言説研究の経験の有無を問わない。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解できるようになる ・ それぞれの方法には、どのような特徴と利点、課題があるのか理解できるようになる ・ 計量テキスト分析の基本的な進め方に関するスキルを習得することができる 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 言説と構築主義 3. 方法論的構築主義の展開と困難 4. 言説と「実態」 統計の位置づけについて 5. 権力と言説 6. 歴史と言説 7. 概念分析について 1 8. 概念分析について 2 9. 対話的構築主義をめぐって 10. 計量テキスト分析のロジックと方法 11. 計量テキスト分析の研究を読む 12. 計量テキスト分析の実際 1 13. 計量テキスト分析の実際 2 14. 計量テキスト分析の実際 3 15. 総括討論 											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（コメントメモの提出、ディスカッション・ワークへの参加）100%

[教科書]

7月半ばまでに、下記のDropboxで文献情報を共有します。

<https://www.dropbox.com/sh/xnaymo4ooog9q5z/AAAXT1r3sCGGNB9fqNv1vDWha?dl=0>

事前に目を通していただくようお願いします。

[参考書等]

（参考書）

スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築 ラベリング理論を超えて』（マルジュ社）
ISBN:4896160665

ベスト, J. 『社会問題とは何か なぜ、どのように生じ、なくなるのか?』（筑摩書房）ISBN:
4480017186

佐藤俊樹・友枝敏雄編 『言説分析の可能性 社会学的方法の迷宮から』（東信堂）ISBN:
4887136544

中河伸俊・赤川学編 『方法としての構築主義』（勁草書房）ISBN:4326602562

酒井泰斗他編 『概念分析の社会学 社会的経験と人間の科学』（ナカニシヤ出版）ISBN:
4779503140

樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』（
ナカニシヤ出版）ISBN:4779514746

仁平典宏 『「ボランティア」の誕生と終焉 贈与のパラドックス の知識社会学』（名古屋大学
出版会）ISBN:4815806632

[授業外学修（予習・復習）等]

・7月半ばまでに、下記のDropboxで文献情報を共有します。事前に読んでください。
<https://www.dropbox.com/sh/xnaymo4ooog9q5z/AAAXT1r3sCGGNB9fqNv1vDWha?dl=0>

・授業では、コメントメモに基づきディスカッションを進めていく予定です。（指示は後日）

（その他（オフィスアワー等））

不明な点等がありましたら、メールでご連絡ください。

仁平典宏

nihenori@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67334 LB45									
授業科目名 <英訳>		社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		東アジア社会論									
【授業の概要・目的】											
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度は台北）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがたって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。 (2)台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。 (3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 イントロダクション 第3回～第8回 3大学の教員によるオンライン授業 第9回～第15回 各自の関心にしがたってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。</p> <p>8月お盆明けの5日間（予定） ワークショップとフィールドワーク * 状況によってはオンライン開催に変更</p>											
【履修要件】											
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業へのコミットメント（40%）、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加（30%）、英語でのプレゼンテーション（30%）により評価する。詳細は授業で説明する。											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしながら発表資料を作成する。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

COVID-19の感染状況によってはワークショップをオンライン開催に変更することがありうるが、前年度もこの方式で開催することができたので、心配しないでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系63

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop									
【授業の概要・目的】											
<p>世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て14年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。 今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているおり、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定 (http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/) これまでの開催についてもアジア研究教育ユニットのHPを参照のこと。</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see detail in call for papers as follows after April http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/</p>											
【到達目標】											
<p>テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。修士、博士レベルの参加者で構成されるため、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、成果は大きい。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen the understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．タイトルの作成 2．要旨の作成 3．応募書類の作成と応募 4．論文執筆（6000語程度） 5．校閲 6．発表原稿作成 7．発表演習 8．修正 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

9. 報告

- 10. 大学教員からのコメントと返答
- 11. 全体のディスカッション
- 12. 研究者間交流
- 13. 論文のリライトと編集
- 14. 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 15. プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

[履修要件]

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。

Applicants need to submit their abstracts in advance, and only those who pass the selection process will be accepted to participate.

[成績評価の方法・観点]

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。Based on workshop presentation and preparation.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Please see calls for papers after April
募集要項に従って準備を進める。

(その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取る。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系64

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		和光大学 専任講師 打越 正行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法（専門社会調査士科目J）									
【授業の概要・目的】											
<p>概要 本講義では沖縄の周辺層の若者への社会調査にもとづいた沖縄社会論を展開する。</p> <p>目的 ・ 沖縄の暴走族、ヤンキーの若者たちが、建設業、性風俗経営、違法就労に就く過程に地元つながりが大きく効いていることを理解すること ・ 質的調査法で得られたデータに基づいて、彼らの職業選択における合理性について理解すること</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査の結果を、論文の形にまとめることができる 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション 講義方法、採点基準等について</p> <p>第2回 参与観察法について 暴走族の「パシリ」になる</p> <p>第3回 映像視聴 調査場面の紹介</p> <p>第4回 沖縄的共同性について 階層の視点から</p> <p>第5回 沖縄的共同性について ジェンダーの視点から</p> <p>第6回 地元つながりと建設業 製造業との違いに注目して</p> <p>第7回</p>											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

建築業で一人前になる
データ解釈

第8回
建築業で一人前になる
データセッション&解説

第9回
ヤンキーうちなーぐち（沖縄方言）と地元つながりについて

第10回
性風俗経営者になる
データ解釈

第11回
性風俗経営者になる
データセッション&解説

第12回
生活史を読む
上間陽子『裸足で逃げる』

第13回
キャバ嬢になる
データ解釈

第14回
キャバ嬢になる
データセッション&解説

第15回
講義まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- (1) コメントシート（10点×6回）
- (2) レポート（40点）
詳細は初回の講義でお伝えします

【教科書】

使用しない

社会学（特殊講義）(3)へ続く

社会学（特殊講義）(3)

[参考書等]

（参考書）

打越正行 『ヤンキーと地元』（筑摩書房、2019）ISBN:4480864652

上間陽子 『裸足で逃げる』（太田出版、2017）ISBN:477831560X

岸政彦・打越正行・上原健太郎・上間陽子 『地元を生きる』（ナカニシヤ出版、2020）ISBN:4779514975

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法』（有斐閣、2016）ISBN:4641150370

宮内洋 『体験と経験のフィールドワーク』（北大路書房、2005）ISBN:4762824763

（関連URL）

<https://blog.goo.ne.jp/uchikoshimasayuki>

<https://uchikoshimasayuki.jimdofree.com/>

<https://gendai.ismedia.jp/list/author/masayukiuchikoshi>

[授業外学修（予習・復習）等]

院生という立場を最大限活用して、積極的に人、モノ、シーンと出会い、そこでよく考えることが、本講義の事前・事後活動である。そうすれば、社会学は役に立つかもしれない。

（その他（オフィスアワー等））

講義計画はあくまで予定であり、受講者の興味関心に応じて大幅に変更される。講義に関心がある方は、どの研究科でも、また留学生、社会人、学部生、学外者など、どのような立場でも歓迎します（ただし本校の学生の教育環境に支障をきたさない限りとする）。なお情報提供が必要な方、子どもを連れて行かなければならないなどの場合は、事前にご相談ください。

m.uchikoshi@wako.ac.jp

打越正行（和光大学）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系65

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際（社会調査士科目G）									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1オリエンテーション											
2 調査の企画											
3 仮説構成											
4 調査項目の設定											
5 質問文・調査票の作成											
6 プリテストと調査票の修正											
7 対象者・地域の選定											
8 サンプルング											
9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）											
10 エディティング											
11 集計、分析											
12 データの視覚化											
13 仮説検証											
14 報告書の作成											
15 フィードバック											
後期											
1オリエンテーション											
2 データの入力・読み込み											
3 単純集計表、ヒストグラムの作成											
4 変数の操作の基礎											
5 変数の操作の応用											
6 クロス集計表、帯グラフの基礎											
7 クロス集計表、帯グラフの応用											
8 散布図、箱ヒゲ図の作成											
9 データセットの分割・結合											
10 独立性の検定											
11 平均値の差の検定											
12 多重クロス表分析											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

【授業外学修（予習・復習）等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系66

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農業・農村に関する社会的・思想的研究文献の講読と講義									
[授業の概要・目的]											
農業・農村に関する社会的研究あるいは思想的研究を対象にして、国内外の基本文献および最新研究を取り上げ、演習形式で授業をおこなう。											
[到達目標]											
農業・農村の社会的・思想的研究に関する世界的視野での動向を把握するとともに、その基礎的な概念や知識を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1から4回 欧州における農業・農村の社会的研究の検討 Rurality、Geographical indication、Rural development、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第5から8回 北米における農業・農村の社会的研究の検討 Agricultural science and technology、Urban agriculture、Food security、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第9から12回 日本における農業・農村の社会的研究の検討 アクション・リサーチやフォーカス・グループインタビュー、などの最近の調査手法に注目しながら、文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第13から15回 総合討論および予備日											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告や討論への参加などの平常点で評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業の進行に応じて適宜指示する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回文献を指定するので、事前に必ず予習してくる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系67

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		欧米における食農倫理研究の最前線									
[授業の概要・目的]											
欧米における食農倫理に関する研究のうちから、最新の注目すべき業績を取り上げて、履修者と討議しながら、講義をおこなう。											
[到達目標]											
食と農の倫理的・世界的な研究内容と課題について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックスの範囲内から欧米の最新研究をとりあげて演習形式で文献紹介をおこない、内容について解説、討議する。											
第1回 食農システムの社会学・倫理学研究の概要											
第2回から5回											
・食農倫理学の体系											
・Alternative Food Networks											
第6回から9回											
・食消費倫理をめぐる実践的研究											
・食農技術開発をめぐる倫理問題											
第10回から13回											
・食料システムの社会学的分析											
第14回・15回											
・総合討論											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告や討論への参加などの平常点で評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回、課題となる文献を示すので、事前に必ず予習しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 竹内 里欧 教育学研究科 助教 藤村 達也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		教育社会学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、現代社会における「自己形成」「成長」をめぐる現象というテーマで行う。授業のはじめに、ビルドゥングスロマンについて解説した上で、現代社会における「自己形成」「成長」をめぐる現象について考察する。ビルドゥングスロマンとは、主人公が様々な経験や移動をとおして自己をつくりあげていくことをテーマとした物語をさす。近代社会において、「自己形成」や「成長」を考える際に参照される典型的な物語として流通した。しかし、そうした物語は現在ゆらぎをみせつつある。現代社会において、「自己形成」や「成長」をめぐる物語はどのように存在しているのだろうか。また、「自己形成」や「成長」というテーマをめぐって、どのような現象が生じているのだろうか。授業は、講義、報告、討論を組み合わせで行う。オンラインで行う予定です。</p>											
【到達目標】											
現代社会における「自己形成」「成長」をめぐる現象というテーマの考察をとおし、教育社会学の研究の理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>1回 インTRODクシヨン(授業の解説、報告担当者の順番決めなど)</p> <p>2回 ビルドゥングスロマンの誕生・発展(講義)</p> <p>3回 ポスト近代社会におけるビルドゥングスロマン(講義)</p> <p>4回 「自己形成」にかんする研究を読む1(先行研究の説明)</p> <p>5回 「自己形成」にかんする研究を読む2(先行研究の報告)</p> <p>6回 「自己形成」にかんする研究を読む3(先行研究についての討論)</p> <p>7回 「成長」にかんする研究を読む1(先行研究の説明)</p> <p>8回 「成長」にかんする研究を読む2(先行研究の報告)</p> <p>9回 「成長」にかんする研究を読む3(先行研究についての討論)</p> <p>10回 映像資料の解説</p> <p>11回 映像資料の鑑賞</p> <p>12回 映像資料をもとにした考察(報告・討論)</p> <p>13回 事例をもとにした考察(報告・討論)</p> <p>14回 現代社会における「自己形成」「成長」とは(討論)</p> <p>15回 授業のまとめと振り返り (上記のような予定で行うが、出席者の関心にしたがって、適宜調整する。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>報告と討論への貢献、レポートをもとに、総合的に評価する。 内訳は、おおよそ、報告と討論への貢献等(60%) + レポート(40%)とする予定であるが、授業</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

の状況により適宜調整する。
到達目標について、教育学部（または教育学研究科）の評価方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告を担当する者は十分に準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアにおける家族と社会 Family and Society in Southeast Asia									
[授業の概要・目的]											
<p>[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族はどのように展開しているのか。そもそも家族はどのように理論化され記述され、また制度化されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題、生殖技術や性的マイノリティなどのかかわりを検討し、家族の領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。受講者の一哉構成により、内容や実施形態を変更する場合もある。</p> <p>[Theme : Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized to begin with, how has it been institutionalized, and how has it evolved in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological developments on the macro level from past to present, following relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant labor, aging and care in relation to the family, reproductive technology and sexual minority and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be lectures, presentations by class participants, as well as discussion. There may be some changes in the contents and method depending on the number and constitution of the class members.</p>											
[到達目標]											
<p>1) 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。 2) 家族を論じることを通じて、東南アジア・東アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。</p> <p>1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective. 2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast and East Asian societies in preparation for the participant's own research.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>I 授業の説明と序論【1週】 II 家族をめぐる議論（人類学を中心に）【2-4週】 III ジェンダーと家族【5-6週】 IV 東南アジアの家族とつながり【7-8週】 V 民族誌で読む家族と社会【9-10週】 VI 家族の制度と国家【11-12週】</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

VII 各論：移動と家族・高齢化とケア・LGBTと家族【13-15週】

I Introduction 【week 1】

II Theoretical discussion of the family 【weeks 2-4】

III Gender and family 【weeks 5-6】

IV Family and relatedness in Southeast Asia 【weeks 7-8】

V Reading ethnographies on family and society 【weeks 9-10】

VI The family as institution and state 【weeks 11-12】

VII Topics: Migration and family, intercultural marriage, care, LGBT family etc. 【weeks 13-15】

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】

平常点（30％）、発表（30％）、期末レポート（40％）

【Method of evaluation】

Class participation(30%), class presentation(30%), final report(40%).

[教科書]

授業中に指示する

授業は、7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。

Introduced during class.

The semester will be divided in seven clusters, and texts will be distributed before each cluster.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を（受講者数に応じて）分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。

Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.

Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.

The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

（その他（オフィスアワー等））

面談が必要な場合は時間設定は随時相談に応じる

Office hour upon consultation.

社会学(特殊講義)(3)へ続く

社会学(特殊講義)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系70

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会情報学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的・経験的あるいは実践的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。											
[到達目標]											
社会情報学およびその関連領域における研究のための基本的な視点と方法を習得する。											
[授業計画と内容]											
演習形式を取り、下記の計画を進める。											
第1回 第2回以降の研究報告の日程を、受講者の希望に基づき調整する 第2～14回 各回につき1～2名の担当者の研究報告と、それに基づく質疑応答・討論をおこなう 第15回 フィードバック(PandA上で実施)											
[履修要件]											
学部レベルの社会学関係科目を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(素点、100点満点)による ・配点:研究報告50点+参加状況50点 ・素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
・自身の研究報告の前提として、事前に十分な時間を取り、先行研究等の関連文献の読み込みやデータの収集・整理を十分におこなっておくこと。 ・研究報告完了後は、教員や他の受講者から受けたアドバイスを参考にし、修士論文、博士論文等の完成に向けて、文献やデータの収集・整理・読解をひきつづきおこなうこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
レジュメの整理・共有等のため、PandAサイトを活用する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系71

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 柴田 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会行動論演習									
【授業の概要・目的】											
<p>人間の社会行動（その集積である社会現象を含む）に関連する自由テーマの研究論文を作成するために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。</p> <p>さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。またその際、担当教員は、社会行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。</p>											
【到達目標】											
人間の社会行動（社会現象を含む）を、客観的に分析・説明・議論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 ガイダンス（先行研究の扱い方、考察の仕方、発表の仕方）、受講者各人の発表日程の決定。</p> <p>第2回 担当教員が見本発表を行う。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。</p> <p>第3回～第14回 毎回1名が発表する。発表では、「人間の社会行動（社会現象を含む）に関連する自由な問い」、「その問いに最も近い先行研究（1つ以上）の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点満点）によって評価する。具体的には、発表の内容（50点）と、議論への参加度（50点）に基づいて評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。
予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

(その他(オフィスアワー等))

本授業は人間・環境学研究科と共通のゼミである。
Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業を行う場合は、履修者全員がそれに参加可能な通信環境(例:通信容量制限なしに安定したビデオ通話ができる環境)にあることを前提に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系72

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		質的調査に基づく研究									
【授業の概要・目的】											
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。											
【到達目標】											
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。											
【授業計画と内容】											
(前期)											
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
(後期)											
第1回 イン트로ダクション 講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告と討議への参加によって評価する											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示をする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系73

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		親密圏と公共圏の再編成 20世紀体制とその転換									
【授業の概要・目的】											
<p>親密圏と公共圏を対にして、その双方の変容、境界のゆらぎ、両者の関係の再編成をとらえようとする試みが、社会科学のさまざまな領域で見られるようになった。20世紀末の社会変容に伴って、従来の近代社会の基本構造となっていた公私の分離が自明性を失い、新たな社会構造が生み出されつつある現状を把握しようとする知的営為と言えよう。本演習では、親密圏/公共圏研究という新たな分野の基礎文献を読んで、理論的枠組みを共有し、その枠組みによって各々のテーマに接近する研究発表を行う。扱うテーマは、ジェンダー、福祉レジーム、労働、ケア、人間の再生産、グローバル化、構造と持続、制度とその変化、など多岐にわたり、これら以外のテーマでも柔軟に対応する。</p>											
【到達目標】											
<p>親密圏/公共圏研究という新たな分野の理論的枠組みを理解する。 その理論的枠組みにより個々の研究テーマに接近する応用力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1)親密圏/公共圏研究の理論的枠組みについて、授業担当者が講義する。(2回) (2)親密圏/公共圏研究に関する基礎文献を各自が読んできて、指定された発表者が整理した論点に沿って、疑問点や異なる見方について話し合う。演習担当者が適宜解説を加える。(10回) (3)親密圏/公共圏研究の枠組みによって個々のテーマに接近する研究発表を行う。(18回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業での発表(全員が最低1回は発表すること) 60% 毎回の授業での積極的発言 40%(無断欠席は減点する)</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究発表を行うための準備をする。

(その他(オフィスアワー等))

研究内容についての相談などは個別に時間を決めて対応する。
発表者が多い場合は4時限にも授業を行うことがあるが、その時間に他の授業がある受講者は参加しなくてよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際とデータ分析(専門社会調査士科目H・I)									
【授業の概要・目的】											
<p>社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。</p>											
【到達目標】											
<p>データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査方法論、調査倫理 2. 調査企画と設計(1) 3. 調査企画と設計(2) 4. 仮説構成 5. 尺度構成法 6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1) 7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2) 8. 調査票の作成(1) 9. 調査票の作成(2) 10. 実査 11. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(1) 12. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(2) 13. グラフ作成、仮説の検証(1) 14. グラフ作成、仮説の検証(2) 15. 報告書の作成 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回帰分析の復習 2. 非線形モデル(対数変換、二乗項の投入) 3. 交互作用効果の検討 4. モデルの選択(AIC, BIC, F検定) 5. モデルの診断(残差プロット、VIF) 6. 二項ロジスティック回帰分析(1) 7. 二項ロジスティック回帰分析(2) 8. 最尤推定法と尤度比検定(1) 9. 最尤推定法と尤度比検定(2) 10. 多項ロジスティック回帰分析(1) 											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

【履修要件】

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習重視。宿題がでる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系75

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学的知の歴史社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の歴史的展開をその社会的環境（社会構造の変動や大学制度の発達、ディシプリンの分化など）と関連づけて社会学的視点から研究した近年の代表的文献をいくつか取り上げて講読し、検討する。ブルデューの「界」理論をベースにしてフランス社会学の成立と展開を研究したJohan Heilbron, French Sociology (2015)のほか、Stephan Moebius、Stephen Turner、George Steinmetz、Andrew Abbott、Donald N. Levineらの著作、さらにはこれらに関連する知識社会学・知識人の社会学の文献（主に英語文献）を取り上げる予定である。</p> <p>またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。</p> <p>なお、受講者に要約・報告してもらう文献は受講者の語学力に応じて割り当て、ドイツ語・フランス語の文献も可能であれば取り上げる。</p>											
【到達目標】											
<p>フランス、ドイツ、アメリカ等における社会学的伝統の形成を規定してきた社会的ならびに思想的な諸要因について理解し、日本の社会学についてもそれらと比較することによってその特徴を相対的に把握できるような視点を獲得する。</p> <p>また、社会学史・知識社会学・歴史社会学の基本的な研究手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <p>【第1回】イントロダクション</p> <p>【第2回～第15回】社会学史・知識社会学文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>後期</p> <p>【第1回～第14回】社会学史・知識社会学文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>【第15回】まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告レジюмеと授業中の発言によって評価する。											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 先端総合学術研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		質的調査の研究									
[授業の概要・目的]											
<p>「質的調査」とは何か、質的調査を通じて論文を書くことはどのようにして可能か、質的調査はどのように捉えられ、どのように批判され、それに対してどのように応答されてきたのか。あるいはより実践的に、これまで質的調査を通じた論文はどのようにして書かれてきたのか、そしてこれからどのように書いていくことが可能なのか。</p> <p>主にこれらの点について、国内外のトップジャーナルに掲載された論文の分析と批評を通じて、参加者全員によるディスカッションをおこなう。あわせて、もし質的調査をおこなっている参加者がいれば、その方ご自身の研究についても報告してもらおう。各回の具体的な構成とスケジュールについては参加者と相談して決めたい。</p>											
[到達目標]											
<p>質的調査とは何か、質的調査を研究するとはどのようなことかについて専門的な知識と実践的な方法について学ぶ。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1 導入 質的調査は何をするのか 2 質的調査の論文のレビューと分析、批判(1) 3 質的調査の論文のレビューと分析、批判(2) 4 質的調査の論文のレビューと分析、批判(3) 5 質的調査の論文のレビューと分析、批判(4) 6 質的調査の論文のレビューと分析、批判(5) 7 質的調査の論文のレビューと分析、批判(6) 8 質的調査の論文のレビューと分析、批判(7) 9 参加者による調査報告とディスカッション(1) 10 参加者による調査報告とディスカッション(2) 11 参加者による調査報告とディスカッション(3) 12 参加者による調査報告とディスカッション(4) 13 まとめ(1) 質的調査は何をしていくのか 14 まとめ(2) 何をすれば質的調査になるのか 15 まとめ(3) 質的調査の研究の研究</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%、平常点50%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系77

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 1									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポリネシアの自然環境と社会・文化 [1週] 2．アフリカの歴史的環境変遷 [1週] 3．日本アルプスと大雪山の植生の立地環境とその30年間の変化 [2週] 4．アフリカの自然と民族 [2週] 5．ケニア山とキリマンジャロの気候変動と水環境・植生の変化 [4週] 6．ナミブ砂漠の自然や植物・動物と人間活動 [3週] 7．アンデスの自然と人間活動 [1週] 6．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（80％）と小テスト（20％）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『気候変動で読む地球史 - 限界地帯の自然と植生から - 』(NHKブックス、2016年)

ISBN:978-4-14-091240-9

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』(ちくま新書、2018年)

ISBN::978-4-480-07125-5

水野一晴 『世界と日本の地理の謎を解く』(PHP新書、2021年) ISBN:978-4-569-84948-5

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』(角川ソフィア文庫、2021年) ISBN:978-4-04-400647-1

[授業外学修(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

事前にメールで問い合わせてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 2									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
インド、ヒマラヤ地域の多様な自然や社会、宗教、文化、生業について、その歴史的変遷から理解する。ヒマラヤの自然環境の中で地域社会が歴史的にどのように成立し、現在の人間活動が営まれているかについて考察し、世界の多様な自然環境の中で営まれる人間活動について、社会や文化、生業、宗教などの観点から検討する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
1. インド、ヒマラヤ地域（アルナーチャル・プラデーシュ）の自然と民族 [2週] 2. チベットからアルナーチャルへの王の移住とクランの成立 [3週] 3. チベット仏教院による税の徴収とゾン（城砦）の成立 [2週] 3. チベット仏教、ポン教、精霊信仰と地域社会 [3週] 4. 森林分布と森林管理 [1週] 5. ヤク放牧と牧畜民社会 [1週] 6. 農地の分布と農耕民社会 [1週] 7. 地域社会と文化 [1週] 8. フィードバック [1週]											
【履修要件】											
高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。 高校で地理を履修していなくても十分理解できます。 特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（80%）と小テスト（20%）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

水野一晴 『神秘の大地、アルナチャル - アッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会 - 』（昭和堂、2012年）ISBN:978-4-8122-1173-1

Mizuno, K. & Tenpa, L. 『Himalayan Nature and Tibetan Buddhist Culture in Arunachal Pradesh, India』（Springer, 2015）ISBN:978-4-431-55491-2

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』（ちくま新書、2018年）ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学修（予習・復習）等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーについては事前に問い合わせてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		山と森の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、環境の利用・改変・管理・認識の視点から、日本の山村と森林の歴史地理を検討する。日本の山村は現在、過疎化や限界集落、廃村といった大きな問題に直面しているが、かつては多くの人々が山や森の動植物に依拠して暮らしていた。山村における人と環境との関係史を、歴史地理学あるいは環境史的な観点から捉えるならば、森林を改変しながらも、それを巧みに利用・管理する暮らしのあり方が浮かび上がってくる。本講義では、地理学・歴史学・民俗学の議論を紹介しながら、山村と森林の歴史地理をたどることで、人と環境の関係について様々な視点に触れるとともに、現在の山村や森林のあり方について、理解を深める機会を提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．山と森の歴史地理 <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人と環境の関係史 第2回 『秋山記行』の世界 2．森林に依拠した生業 <ol style="list-style-type: none"> 第3回 堅果食の系譜 第4回 狩猟とその周縁化 第5回 焼畑と森林管理 第6回 木地師と木工の系譜 3．山をめぐる自然観 <ol style="list-style-type: none"> 第7回 山の神とは誰か 第8回 修験道の自然観 4．森林植生の人為的改変 <ol style="list-style-type: none"> 第9回 「禿山」と人為的草原 第10回 育成林業の登場 第11回 科学的林業と植生管理 5．山と森の近代 <ol style="list-style-type: none"> 第12回 風景としての山岳 第13回 登山とナショナリズム 第14回 内なる異文化 第15回 フィードバック 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業回数ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

米家泰作 『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』（校倉書房）ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』（吉川弘文館）ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』（文一総合出版）ISBN:9784829911999

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース）)

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID（Open Researcher and Contributor ID）)

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ（科学技術振興機構）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本と地理的知									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

J・モリッシーほか(上杉和央監訳)『近現代の空間を読み解く』(古今書院)ISBN:4772231848

B・グレアム, C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』(古今書院)ISBN:4772214704

D・リヴィングストーン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』(法政大学出版局)ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』(SAGE Publications)ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版)ISBN:9784784219735

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku/>(講師のフェイスブック)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じる。地理情報処理の実例として地形データ（数値標高モデル：DEM）および衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。地形図が利用できない地域でも利用できるDEMや衛星画像は、グローバルなスケールで有効な地理情報ソースとして位置づけることができる。コンピュータを利用した実習も含む。</p>											
【到達目標】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についての理解の増進，そしてDEM・衛星画像の処理・分析方法についての技術の習得を目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 地理情報のモデル化 地表の現実ないし地図の内容をコンピュータで扱うためのモデルとして，ベクトルモデルとラスタモデルの2つを取り上げ，それぞれの特質について説明する。（1, 2回）</p> <p>2) 地理情報システム 実際に運用されているGIS（地理情報システム）がどのようなものか，QGISを利用して，ベクトル・ラスタそれぞれの形式について実際に取り込んで実習する。適切な地理情報運用と地図表現には，正しい投影法と座標系の理解が必須なので，経緯度，UTM（ユニバーサル横メルカトル）座標などについて講ずる。#160地理情報処理で扱われるデータフォーマットについて，Shape, GMS, GeoTIFFなどを取り上げる。（3, 4, 5回）</p> <p>3) 地形データの処理・分析 ラスタモデルに基づく格子DEMを紹介し，QGISなどを利用して計量地形学に基づく分析を実習する。（6, 7回）</p> <p>4) リモートセンシングの原理と応用 衛星画像の利用はリモートセンシングに含まれるが，その原理について，それが電磁波の観測に基づくことなどを説明する。また大気・地表・海洋の観測など，応用分野ごとの特徴について考察する。（8, 9回）</p> <p>5) 衛星による地球観測 地球観測衛星の運用方法について説明する。地球観測衛星の光学センサー，合成開口レーダーについて解説し，さらに近年利用可能になった高解像度衛星の性能について紹介する。さらにデータの入手方法について説明する。（10, 11回）</p> <p>6) 衛星画像の分析と表示 コンピュータを利用した衛星画像の応用は，地表の土地被覆についての処理・分析が中心だが，それらについて紹介する。衛星画像の複数バンドを用いた合成色表示植生分布の指標化，最尤法に基づく土地被覆分類の原理を説明した上で，コンピュータを用いた実習を行う。QGISなどを利用する。（12, 13, 14回）</p> <p>7) フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも，授業内容に関する質問等があれば，随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は，事前にメール等で日時を決めることが望ましいが，気軽に相談してほしい。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/>(小方研究室ホームページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できるもので，各自のパソコンにダウンロードすること。必要に応じ，メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，授業で扱う内容を実行することができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系82

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国農村の生活空間									
[授業の概要・目的]											
中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、地理学の視圏に軸足をおいて講義を進める。江蘇、河南、四川などで行ってきたフィールド調査に基づいて、中国農村の生活空間とその多様性を実態的に考えてゆく。											
[到達目標]											
地理学における生活空間論に関する基本的事項を理解する。 中国農村について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。 第1～5回 村落・行政村 第6～9回 定期市・市場町・市場圏・郷 第10回 生活空間論 第11回 通婚圏 第12回 広域の生活空間 第13～15回 基層空間の20世紀											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に期末のレポートにより評価を行い(9割)、授業への参加度を加味する(1割)。授業への参加度は授業時のディスカッションやミニツツペーパーによって測る。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業の内容について、授業中に紹介した文献や論文を参考としながら、自らの興味関心に応じて発展的な学習を展開する。期末レポートにその成果を反映することになる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論文講読と地域調査から学ぶ歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、歴史地理学の視角と方法を、論文講読と 城下町都市の地域調査を通じて、受講生が主体的に習得することを目的とする。この授業は受講生が担当を分担し、レジュメを作成する。それを基にした発表を受けて、討論と解説形式で行う。受講生は下記の内容のうちのいずれかを必ず担当する。</p> <p>論文講読：近年（過去10年間）の主要学術雑誌における歴史地理学の論文の中から、発表者が対象論文を選ぶ。発表者は、新旧地形図を併用して論文内容の紹介を行う。関連文献を読んで、客観的に論文を評価するレジュメを作成し発表する。他の受講生も対象論文を読んできて、意見を出し合う。</p> <p>地域調査：日帰り圏内の城下町都市（大垣、尼崎、岸和田、篠山など）について、複数名の担当者を決め、グループを構成する。各グループで地域調査の内容を分担し、それぞれでレジュメ作成と作図を行って授業で発表する。討論を行い、意見や疑問を提示して、現地での課題を明確化する。巡検では、レジュメ作成者が説明も担当する。その後の授業で、参加者の提出した巡検レポートをもとに、巡検のまとめとフィードバックを行う。</p>											
【到達目標】											
多様な資料を活用した歴史地理学的な地域調査の予察、読図と比較地誌的な考察、現地における景観観察、歴史地理学の論証の理解ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業の概要説明、城下町都市 の新旧地形図の読図 第2回：城下町都市 の新旧地形図の読図 第3回：歴史地理学に関する論文講読、担当分け 第4～6回：城下町都市 に関する発表と討論 第7回：巡検のフィードバック 第8～10回：城下町都市 に関する発表と討論 第11回：巡検のフィードバック 第12～13回：歴史地理学に関する論文講読 第14回：総括 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(30%)

平常点：毎回の授業のコメントペーパー、担当課題、巡検レポート(70%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業の課題、自分の担当箇所のレジュメ作成

復習：巡検レポートの作成

(その他(オフィスアワー等))

巡検は土日・祝日に行う。各自の日程の都合に応じて参加は自由。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、生協の学生総合共済等の自分が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月6日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）</p> <p>9月7日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）</p> <p>9月8日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検</p> <p>京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		成蹊大学 経済学部 教授 財城 真寿美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		気象・気候でよみとく地球環境									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、地球大気で生じる現象について、様々な時空間スケールで解説をする。まず、大気で生じる現象について、大気の構造や運動、エネルギー収支などについて気象学の基礎的な事項を学ぶ。次に、気候学的な視点から、大気現象の空間分布、時間変化の特徴やそのメカニズム等について解説する。気候変動については、様々な代替指標による気候復元研究の成果や、地球温暖化問題について詳しく掘り下げる。くわえて、身近な気候環境を理解する目的で、簡易気象観測を実施しデータ分析の演習を行う予定である。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・地球大気で生じる現象について、そのメカニズムを理解できる ・地球大気で生じる様々な現象について、その時空間的特性を理解できる ・地球大気の様々な現象における現代的課題について理解できる ・地球大気で生じている様々な課題に対し、地理学はどのように向き合うべきなのかについて、主体的に考え、発想することができる 											
[授業計画と内容]											
<p>[第1回]イントロダクション (講義) 授業のねらいや進め方について概説する</p> <p>[第2-4回]地球大気の構造・運動・エネルギー収支 日々の天気予報で耳にする気圧・風・気温について、高校物理の関連事項を復習しながら、気象学の基礎的知識を習得する。習熟度を測るために、最後に小テストを実施する。</p> <p>[第5-8回]様々な時空間スケールで俯瞰する地球の気候 世界の気候分布、大気海洋相互作用、日本の気候の特徴、ヒートアイランド現象などについて、多くの文献を取り上げて解説する。必要に応じて、気象データの分析演習を行う。</p> <p>[第9-12回]気候変動 気候復元の手法、気候変動の要因、氷期 - 間氷期サイクル、歴史時代の気候変動、地球温暖化について解説する。</p> <p>[第13-15回]身近な気候環境調査 簡易温湿度計を使用して、大学構内（もしくは近隣地域）で気温分布の観測を行う。観測実施前に観測計画をたて、実施後に回収データの補正や分析、地図化などを行う。</p> <p>上記の計画は、学生の興味・関心や実習の内容により変更する可能性がある。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のコメント，ディスカッションへの参加，小テスト，実習に関する小レポート等）により総合的に評価する．

[教科書]

使用しない

参考資料は配布，またはウェブ上にて共有する予定である．

[参考書等]

（参考書）

白木正規 『新 百万人の天気教室』（成山堂書店）ISBN:9784425513512

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』（KADOKAWA）ISBN:9784044006471

日下博幸 『学んでみると気候学はおもしろい』（ベレ出版）ISBN:9784860643621

多田隆治 『気候変動を理学する』（みすず書房）ISBN:9784622086727

[授業外学修（予習・復習）等]

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し，翌日の授業に応用することが望ましい．

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良教育大学 社会科教育講座 准教授 河本 大地			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地域多様性を活かした未来づくり									
【授業の概要・目的】											
<p>SDGs（持続可能な開発目標）が社会的に大きく取り上げられています。あなたは、地理学の見方・考え方や知見を活かしてどのような未来を形づくっていきたいですか？ それを考え、議論するのが、この授業です。</p> <p>自然の中での人間のあり方を「地域」を軸に探るべく、地域多様性という考え方と、現代の農村地域をめぐる状況に焦点を当てます。授業中の講義内容と、教科書の内容、そして互いの経験を共有しながら、地域の価値やわくわくする社会の在り方を議論し発信しましょう。</p>											
【到達目標】											
地域に関する未来志向の表現者としての力量を伸ばす。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション、SDGsをどうとらえるか 第2回：地域多様性という発想 第3回：地域多様性×グリーンツーリズム 第4回：フィールドワーク 第5回：地域多様性×文化景観 第6回：地域多様性×食と農 第7回：地域多様性×出会い 第8回：地域多様性×エコツーリズム 第9回：フィールドワーク 第10回：地域多様性×生物多様性 第11回：地域多様性×ジオ 第12回：地域多様性×居住 第13回：地域多様性×自治 第14回：地域多様性×教育・学習 第15回：地域多様性×あなたの未来</p> <p>対面授業（場合によっては一部をリアルタイム型のオンライン授業にします）と、地域を五感で理解するフィールドワークを組み合わせ実施します。 各回のディスカッション等のまとめを、回ごとに担当者を決めて作成し、次の回で発表してもらいます。その際にフィードバックを行います。 フィールドワークは、基本的に休日に実施します。行先や日時・期間・回数、テーマ等については、みなさんの意見や感染症の状況などをかんがみて検討します。集団でのフィールドワークの実施が困難になった場合は、各自で実施してもらい、授業時間に内容の共有とステップアップを図ります。 受講者の興味・関心等により、内容や進め方を若干変更することがあります。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績評価はポイント制です。

...最終試験は行いません。そのぶん、各回の事後課題の質と量を重視します(60%)。また、各回のディスカッション等のまとめを、回ごとに担当者を決めて作成し、次の回で発表してもらいます(40%)。

授業を進めるうえでの重要な役割を担ったり、授業内容に関連するイベント等に参加してその成果を報告したりすると、加点されます。

【教科書】

岡橋秀典 『現代農村の地理学』(古今書院, 2020) ISBN:9784772231947

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

ほぼ毎回、事前に教科書の中の指定する部分(1~3章分)を読んできてもらいます。

各回の事後には、授業時のディスカッションを通して自分が考えたことを記してもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メール等を気軽に送ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良教育大学 社会科教育講座 准教授 河本 大地			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農村地域研究実践									
【授業の概要・目的】											
特定の農村地域（多自然地域、農山漁村地域、中山間地域等）を対象にフィールドワークや文献調査を実施し、成果を数本の共著論文にまとめます。											
【到達目標】											
一連の活動を通じて、農村地域を対象とした事例研究の手法を身につけましょう。											
【授業計画と内容】											
第1回： オリエンテーション 第2回： 研究のテーマ・方法・枠組みの検討 第3回： 関連する研究の紹介と議論 第4回： フィールドワークの準備 第5回： フィールドワーク（現地調査） 第6回： フィールドワーク（現地調査） 第7回： フィールドワーク（現地調査） 第8回： フィールドワークの振り返り 第9回： 調査結果の分析 第10回： 調査結果のとりまとめ 第11回： 地図作成と空間分析 第12回： ここまでの活動へのフィードバック 第13回： 補足調査 第14回： 論文完成 第15回： まとめと振り返り											
【履修要件】											
前期開講の地理学(特殊講義)を受講しておくことが望ましい。後期のみ受講の場合はメール等で相談すること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価はポイント制。最終試験は行いません。各回の課題（40％）に、成果物である論文への貢献度を組み合わせます（60％）。 授業を進めるうえでの重要な役割を担ったり、授業内容に関連するイベント等に参加してその成果を報告したりすると、加点されます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

岡橋秀典 『現代農村の地理学』（古今書院，2020）ISBN:9784772231947（前期と同じです。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

段階を追って学べるようほぼ毎回課題を出しますので、しっかりと取り組んでください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メールやメッセージを気軽に送ってください。
フィールドワークの行先や日時・期間・回数、テーマ等については、前期の授業時に出された意見や感染症の状況などをかんがみて初回授業時に検討します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		富山大学学術研究部人文科学系 鈴木 晃志郎 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理学特殊講義									
[授業の概要・目的]											
<p>大学における講義で提供されるのは、各々の学識経験者を通じた先人の預言であることが多い。しかし、往々にしてその預言者たちは、成績評価を下すという儀礼を繰り返すことによって、あたかもその研究領域の神であるかのように振る舞う行為を内在化し、(必ずしも優秀とは限らない)預言者にすぎぬ自身の姿を、シラバスや授業過程の中に隠匿しようとする。</p> <p>本講義は、特殊講義と銘打たれている。この科目の特殊性を鑑み、私は浅学菲才の一学生が研究者・教育者となっていく過程を、聴講者と疑似的に共有することを試みる。何が預言者自身を地理学へと向かわせたのか、学問することの面白さや厳しさとは何かを、できる限り一人称に近い形の、生きた学びとして提供したい。その試みを通じて、結果的に地理学を学問する行為の面白さが伝わることを、本講義の狙いとしている。</p> <p>今、あなたが獲得したいのは、先人たちによって磨かれた知識体系としての地理学だろうか。もしそうなら、あなたは受講すべきは概論であってこの講義ではない。しかしあなたが、自身も地理学を学び続けながら、次の世代にその学びを伝えることを許された一個人の経験を通して、研究する行為をより等身大に近い形で追体験したいなら、あなたは本講義の受講者であり、大いに歓迎する。</p> <p>講義提供者の専門領域は行動地理学(認知地図研究)、社会地理学(景観紛争)、文化地理学(怪異の地理学)、背景知識としての観光学に跨る。聴講を通じて、特にこれらの分野について、より深い理解が得られるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>講義提供者の専門分野(景観紛争や観光の地理学など)を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して「学問する」知的職人としての態度を身につけることをめざす。なお、講義提供者は人文地理学者であるため、自然地理学の内容は(ほとんど)提供されない。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、タイトルは変更可能性があり、講義の進展状況に対応して順序やテーマ内の回数を変えることがある。</p> <p>I. 研究で身を立てる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：人文地理学とは何か 2. 地理学と空間認知I 3. 地理学と空間認知II 4. 生物学者との対話 <p>II. 研究で社会と向き合う</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 世界遺産と文化的景観 6. 景観紛争のポリティクス 7. 住民意識の空間的次元 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

III. エンパワーメントの試み

8. 演習：紛争解決に参画してみよう
9. 演習：紛争解決に参画してみよう
10. 地理学者としてのADR

IV. 「好き」を研究にする

11. 音楽における近代化
12. 近代音楽におけるリージョナリズム
13. クリエイティブ・クラスとユダヤ人

V. 地理学の未来を育て、未来を考える

14. 怪異の地理学
15. 研究するまなざしの獲得

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業内の小課題（30点）、レポート（70点）により評価する。

【教科書】

使用しない
使用しない
資料を配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
・エンパワーメントの研究は演習を行います。新型コロナの感染拡大状況が予断を許さないため、場合によっては差し替える可能性があります。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、簡単な課題を出すので、提出してください。

（その他（オフィスアワー等））

京都大学に双方向型のオンライン授業支援システム（本学ではMoodleと呼んでいる）があるのか、現時点では承知していませんが、あるようならそれを介してお気軽にお声掛けください。無い場合でも、メールや授業後の声掛けには応じますのでご遠慮なく。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 村田 陽平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジェンダー地理学の再構築：空間の男性学									
[授業の概要・目的]											
本授業では、ジェンダー地理学の再構築を論じる。とくに男性学の視点を導入した空間の地理学的分析を学ぶ。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学におけるジェンダーに注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて空間のジェンダーを論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 2～5. セクシュアルマイノリティと空間 6～8. 男性政治家と空間 9～11. 男性建築家と空間 12～15. 男性と空間理論 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業内でのディスカッションで評価する。											
[教科書]											
村田陽平 『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』（京都大学学術出版会，2009）ISBN: 9784876987580											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業後に教科書を読んで復習する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系90

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 村田 陽平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		健康の地理学									
【授業の概要・目的】											
本授業では、健康の地理学、とくに受動喫煙の環境学の視座と具体的な研究の実践について論じる。新しい分野の健康の地理学の可能性を検討する。											
【到達目標】											
1. 健康の地理学における「現代の視座と実践」を理解する。											
【授業計画と内容】											
1. 授業の概要と導入 2～5. 世界の受動喫煙対策 6～9. 日本の受動喫煙対策 10～15. タバコ産業の戦略と健康の地理学 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業内でのディスカッション											
【教科書】											
村田陽平 『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』（世界思想社、2012年）ISBN: 9784790715740											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業後に教科書を読んで復習する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系91

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然生態論									
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。 ・植生や植物（野生植物、雑草、農作物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。 ・文献により重要な概念を学ぶとともに、野外実習や標本資料をつうじてモノを覚え、フィールドワークでの観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 世界史を変えた50の植物 第2回 植物から地域をみる：植物の多様性 第3回 野外実習：東山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第4回 植物から地域をみる：栽培植物と農耕の起源 第5回 植物から地域をみる：大航海時代とプラントハンター 第6回 農業から地域をみる：水田稲作 第7回 農業から地域をみる：焼畑耕作 第8回 野外実習：鴨川の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第9回 農業から地域をみる：里山の環境利用 第10回 植物から地域をみる：森林の植生 第11回 農業から地域をみる：日本の林業 第12回 植物から地域をみる：木材の利用 第13回 野外実習：西山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第14回 植物から地域をみる：植生と植物利用 第15回 期末レポート・フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。
平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房, 2007年) ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

【授業外学修(予習・復習)等】

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

【その他(オフィスアワー等)】

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間と自然の関係性の理解									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地理学と強く関連するテーマである人間と自然との関係に着目し、人類の日常生活と生活世界、環境や資源の認識と利用、自然への働きかけ、労働と報酬の分配、科学知と在来知識という生態人類学の主要トピックを取り上げる。とくに人類の生産と消費、社会の変容、人間と環境との関係、環境や資源の利用にフォーカスをあて、受講生のみなさんがテーマにそった日本語/英語の文献を読んで、内容を紹介するという演習形式で授業を進める。授業担当者よりその内容に関する追加の解説と話題提供をおこない、受講生と議論する予定にしている。</p>											
【到達目標】											
<p>地理学と生態人類学、その周辺分野に関連する文献の読解を通じて知識の習得、人類と資源、環境との関わり、社会の仕組みに関する基本的な見方、社会を分析する見方を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 生態人類学の射程と地理学との交叉 3. 核としての周辺(1) 日本の例 4. 核としての周辺(2) アフリカ、東南アジアの例 5. 自然社会の暮らし(1): 狩猟・採集社会 6. 自然社会の暮らし(2): 牧畜社会 7. 自然社会の暮らし(3): 農耕社会 8. 自給社会と貧困の問題 9. 貨幣経済の流入と社会変容 10. アフリカにおける呪いの問題: 平準化 11. 富の分配と経済格差、平等性 12. グレート・アクセレーション(1): 物質・エネルギー 13. グレート・アクセレーション(2): 大量生産・大量消費社会 14. 「持続的な開発」とは? 15. まとめ: 人類の行く末 <p>(発表者の選ぶトピックによって、授業内容の順番は変更になる予定。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

発表・レポート(60点)、平常点(40点)。
出席や発表、議論への参加などで判断する。発表回数は各人1回を予定していますが、受講生が少ない場合には2から3回まわってくることもある。毎回1度は発言をしていただきます。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

松井 健, 野林 厚志, 名和 克郎(編) 『グローバル化と「生きる世界」 生業からみた人類学的現在』(昭和堂)

羽瀨 一代, 内藤 直樹, 岩佐 光広(編) 『メディアのフィールドワーク アフリカとケータイの未来』(北樹出版)

山本紀夫(編) 『熱帯高地の世界: 「高地文明」の発見に向けて』(ナカニシヤ出版)

Steffen, W., Sanderson, A., Tyson, P., J#228ger, J., Matson, P., Moore III, B., Oldfield, F., Richardson, K., Schellnhuber, H. J., Turner II, B. L. and Wasson, R. J. 『Global Change and the Earth System: A Planet Under Pressure.』(Springer-Verlag)

1、2回目の授業ときに文献リストを提示し、文献紹介の担当と順番を決める。参考書については吉田南と本館の図書館、東南アジア研究所とアフリカ地域研究資料センターの図書室に所蔵されているものを使用します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前にテキストを読んで関連文献にあたったり、用語の下調べをすること。用語を記憶しようとするよりも、社会の事象や動きを把握し、そのメカニズムを解明しようとするプロセス、そしてそのプロセスを論理的に表現しようとする研究に従事する楽しさ、学問のおもしろさ、人に説明する楽しさが分かるようになることを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

川端通り沿いの稲盛記念館3階314室に研究室があります。空ぶりをしないよう、事前にメールすること。授業後にお話をするのも歓迎です。

oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系93

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地誌の歴史と現代的意義									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は地誌の歴史的背景と学術的展開を学び、地誌の現代的意義と課題について検討する。地誌は歴史的に権力や軍事行動と密接に結びついてきたことや、記述者の位置性をめぐって、批判にさらされてきた。現在、学術的に地誌は衰退したと言われる一方で、地理教育においては依然として地誌学習が重要な役割を持っている。この授業では、こうした地誌の歴史的背景と学術的、社会的な位置づけを踏まえた上で、地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割の可能性と課題を、出席者1人1人が主体的に考えることができるようになることをねらいとする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地誌の歴史と学術的な展開、社会的な位置づけについて理解する。 ・地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割について考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション 第2回目 古代・中世の地誌 第3回目 植民地支配と地誌 第4回目 近代における地理学の成立と地誌 第5回目 地政学と兵要地誌 第6回目 戦後における地誌の衰退 第7回目 英語圏の「新しい地誌」 第8回目 非英語圏の「新しい地誌」 第9回目 地理的表象の危機と地誌 第10回目 映像人類学からの示唆 第11回目 地理教育と地誌(1) 地誌学習の変遷 第12回目 地理教育と地誌(2) 教科書記述の問題 第13回目 世界認識ツールとしての地誌 第14回目 地誌の学問的・社会的な位置づけ 第15回目 まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート(4点×13回=52点)、期末レポート(48点)で評価する。</p> <p>・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。</p>											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

熊谷圭知・西川大二郎編 『第三世界を描く地誌 ローカルからグローバルへ』 (古今書院、2000) ISBN:978-4772250498

熊谷圭知 『パプアニューギニアの「場所」の物語 動態地誌とフィールドワーク』 (九州大学出版会、2019) ISBN:978-4798502489

クリフォード、J.・マーカス、J. 編 『文化を書く』 (1996、紀伊國屋書店) ISBN:978-4314005869

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』 (2004、古今書院) ISBN:978-4772240536

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は授業(金曜4限)後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜15半~17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Bangladeshの動態地誌：国家・開発・経済									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地域間および特定の要素間の関係に着目した Bangladeshの動態地誌を通じて、地誌を含む地理的知の政治的・社会的影響と、地誌を通じた地域理解、世界認識の可能性と課題について検討することを目的とする。</p> <p>本授業は三部構成になっており、それぞれ下記のテーマを扱う。</p> <p>第一部 英国植民地統治に伴って実施された地誌編纂が植民地期 / 独立後の国家および社会に及ぼした影響</p> <p>第二部 冷戦体制下において「低開発」の「第三世界」とされた Bangladeshにおいて行われた開発</p> <p>第三部 安価な労働力の供給地として近年、注目を浴びるようになった Bangladeshと日本との関わり</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Bangladeshの国家の成り立ちや開発、経済成長の動向と、これらにまつわる諸問題について理解する。 ・ 地誌による地域理解、世界認識が孕む問題と可能性について考察することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第一部 科学の「実験場」としてのインド</p> <p>第2回目 分割統治と地誌</p> <p>第3回目 国民国家と地理的知</p> <p>第4回目 ポストコロニアルの苦境 (1) 宗教間対立</p> <p>第5回目 ポストコロニアルの苦境 (2) 難民</p> <p>第6回目 ポストコロニアルの苦境 (3) カースト差別</p> <p>第二部 援助の「実験場」としての Bangladesh</p> <p>第7回目 冷戦の地政学と国際開発</p> <p>第8回目 開発のオーナーシップ (1) 農村開発</p> <p>第9回目 開発のオーナーシップ (2) 人口抑制</p> <p>第10回目 開発のオーナーシップ (3) NGOの第2の行政化</p> <p>第11回目 開発のオーナーシップ (4) マイクロファイナンス</p> <p>第三部 ネクスト11としての Bangladesh</p> <p>第12回目 (新) 国際分業における Bangladeshの位置づけ</p> <p>第13回目 ファストファッション産業から見る Bangladeshと日本</p> <p>第14回目 日本に暮らす Bangladesh人</p> <p>第15回目 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

前期に地理学特殊講義「地誌の歴史と現代的意義」を履修することが望ましいが、履修していなくても受講可能。ただし、「地誌の歴史と現代的意義」を履修しなかった人は、第1回目のオリエンテーションにできる限り出席してください。

【成績評価の方法・観点】

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。

- ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジュメを配布する。

【参考書等】

（参考書）

長田華子 『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』（お茶の水書房、2014）ISBN:978-4275010582

向井史郎 『バングラデシュの発展と地域開発』（明石書店、2002）ISBN:978-4750316666

Breckenridge, C. A. and van der Veer, P. 『Orientalism and the Postcolonial Predicament: Perspectives on South Asia』（University of Pennsylvania Press、1993）ISBN:978-0812214369

【授業外学修（予習・復習）等】

受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 77441 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『信長公記』の地理を読む・歩く									
【授業の概要・目的】											
<p>歴史地理学では、地域環境や景観を叙述した歴史資料(テキスト)を歴史的文脈の中で正確に読み(講読)、その中の地理情報を地図化し(復原図の作成)、その後の地域構造の展開を把握した上で(新旧地形図の読図)、現地を詳細に歩き、景観を観察して(巡検)、歴史資料と現在の地域構造の関連を考える。講読対象とするテキストは、織田信長の同時代の伝記である『信長公記』である。『信長公記』には、信長の転戦した地域についての戦国末期の景観が描出されている。このテキストに叙述された情報を、地図に照らして可視化すれば、織田信長の軍事行動、戦略、家臣団の構造、戦国末期の合戦の展開、村落や都市と戦国大名との関連、城下町建設・経営の具体像、戦国末期の自然環境などについて、新たな発見ができる。『信長公記』は比較的読みやすく、現代語訳本もあり、講読の参考になる。受講生はテキストを分担して、内容の解説、地形図上での解釈、関連するテーマの調べを行い、その成果をレジュメとしてまとめて発表する。それについて全員で討論を行う。また、『信長公記』に登場する地域について巡検を行う予定であり、地形図の編集を含めたレジュメ作成と発表も受講生が担当する。今年度は、本能寺の変(天正10年)に近い、天正8・9年の織田信長をめぐる合戦の地理を読み解く。</p>											
【到達目標】											
<p>歴史地理学の視角を理解し、文献講読、景観復原図の作成、地形図の読図、巡検といった、基本的な方法を実践できるようになる。また、これらの実践を通じて、地理学的想像力・発想力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：概要説明、『信長公記』に登場する地域の新旧地形図の読図</p> <p>第2回：『信長公記』(播磨・但馬平定)の発表と討論</p> <p>第3回：『信長公記』(羽柴秀吉の鳥取城攻め)の発表と討論</p> <p>第4回：鳥取城下町の形成に関する発表と討論、発表順・分担の決定</p> <p>第5回：『信長公記』(大坂石山本願寺との戦い)の発表と討論</p> <p>第6回：中世大坂、大坂城下町の形成に関する発表と討論</p> <p>第7回：『信長公記』(佐久間父子追放)の発表と討論</p> <p>第8回：『信長公記』(徳川氏・武田氏の遠江をめぐる戦い)の発表と討論</p> <p>第9回：『信長公記』(馬ぞろえの儀式)の発表と討論</p> <p>第10回：『信長公記』(高天神城の攻略と能登・若狭の家臣配置)の発表と討論</p> <p>第11回：『信長公記』(和泉国槇尾寺への攻撃)の発表と討論</p> <p>第12回：『信長公記』(越中・能登の平定)の発表と討論</p> <p>第13回：『信長公記』(伊賀平定)の発表と討論</p> <p>第14回：『信長公記』(淡路平定)の発表と討論</p> <p>第15回：総括(フィードバックを含む)</p>											
----- 地理学(演習)(2)へ続く -----											

地理学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（巡検レポートの提出でも可）30%
平常点（毎週の授業感想の提出、担当回の発表・レジюме作成）70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の発表や討論等から得られたことや感想を毎回提出することが復習となる。必ず1回は、巡検レジюмеの作成・発表か『信長公記』の講読レジюме作成・発表があたる。巡検レジюмеの作成者は、実際の巡検の時に説明も行う。

（その他（オフィスアワー等））

土日・祝に複数回、巡検の機会を設ける。巡検は参加自由。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、念のため、生協の学生総合共済等の各自が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 7M372 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 講師		水野 一晴 米家 泰作 杉江 あい	
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習									
【授業の概要・目的】											
院生それぞれが遂行する研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆に至る一連の段階）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねることにより、研究を深めることを目指す。											
【到達目標】											
到達目標は以下の3点である：(1)参加する院生の関心に即したテーマについて、それぞれが研究動向を把握し、内外の先行研究を批判的に読み込み、新しい研究課題を的確にとらえるむこと、(2)オリジナリティ豊かな調査研究・分析手法の力量を高めること、(3)明快で論理的な論文の論理構成や図表作成の能力を高め、研究発表や論文執筆を行う力量を身に付けること。											
【授業計画と内容】											
年度初めに1年間の院生の発表スケジュールを決め、それに従って、院生はレジュメを用意して各自の専門のテーマに関する発表を行う。その後、発表に関する討議を行う。なお、院生は1年間に少なくとも2回の発表をする必要がある。各発表では、半年間の研究成果を報告する。それぞれの発表につき院生1名が書記を務め、討議の内容を記録し、演習終了後に口頭で要約し、さらに1週間以内にそれを印刷して、演習出席者全員に配布する。発表者は討議で指摘されたコメントを踏まえて研究を深めたり修正を加えたりすることによって、修士課程の院生の場合は修士論文の作成に、博士課程の院生の場合は学会誌投稿論文のとりまとめに反映させることが求められる。											
第1回 インTRODクション 第2～29回 受講生による研究発表と討議 第30回 全体のまとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) なし											
----- 地理学(演習)(2)へ続く -----											

地理学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は、演習発表のレジユメを準備すること。担当者は、毎回の発表と質疑の記録をとり、参加者に配布すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系97

科目ナンバリング		G-LET31 7M373 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学（演習） Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		スケールを考える									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学における“Scale”は、地図の縮尺を示すほか、研究の認識や方法における空間的な視圏を意味してきたが、グローバル化に象徴される複雑な関係性への関心が高まる中で、存在としての空間として用いられるようになってきている。この地理的スケールとも呼ばれる研究動向を整理した、Andrew Herodの『Scale』をテキストとして、生活空間論・地域論との接点や可能性についてディスカッションする。</p>											
【到達目標】											
<p>人文地理学における研究フロンティアを理解する。 地理的スケールを用いて研究活動をすることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>テキスト『Scale』の記載内容や関連する概念、あるいは具体的な事例について、事前に課題が提示され、それを紹介する受講生の報告を導入として、ディスカッションを行う。演習授業は次のテーマについて、それぞれ1～3回をあてる。フィードバックを含めて全15回。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．スケールとは 2．身体 3．都市 4．地域 5．国家 6．グローバル 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>担当課題の報告（6割）、他報告の討論記録（2割）、ディスカッションへの参加度（2割）を総合的に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>Andrew Herod 『Scale』（Routledge, 2011）ISBN:9780415349086（KULINEに電子ブックがある） テキストは購入を勧めるが、京都大学図書館KULINEに電子ブックがある。</p>											
----- 地理学（演習）(2)へ続く -----											

地理学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、課題が提示されるので、テキストの関連部分を読んで、演習に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。